9784073060932
1920979009301
ISBN4-07-306093-7
C0979 ¥930E

銀河戦国群雄伝 15
ライ
真鍋譲治
Dengeki Comics EX
DC EX
銀河戦国群雄伝
ライ
15
真鍋譲治
DE-5-15
発行
メディアワークス
発売
主婦の友社

DC EX

銀河戦国群雄伝ライ

15

真鍋譲治

DE-5-15
発行 メディアワークス
発売 主婦の友社

RAI

BY JOJI MANABE

15

銀河戦国群雄伝

ライ

●ARTIST
JOJI MANABE

●EDITOR
MASAHITO ARINAGA
ANRI KOMATSU

●BOOK DESIGN
TETSUYA ASAKURA

●SPECIAL THANKS TO
MASAHIKO YAMASHITA
YOSHIKI MORISHITA
TOSHIMICHI OKITA
SHINICHI YAMAGUCHI
HIRONORI NAGAI

戦国の銀河を生き抜く群雄たち

【竜我雷】りゅうがらい

本編の主人公。その度胸と悪運の強さを狼刃に買われて一兵卒より師団長に抜擢され、五丈軍先鋒として南天に雪崩込む。南天軍の前線を突破するや、大暴れして要衝座王都に一番乗りを果し、その勇名は敵味方に響き渡る。その後も、数々の戦功により、昇進に昇進を重ね、骸羅のクーデター時には、南京楼の大守に収まっていた。初めて地盤を得た雷は、その地で希代の天才、師真を自軍に軍師として迎え、また、皇室の娘紫紋を妻に迎えるや、すぐさま中央に反旗を翻し、挙兵する。圧倒的に不利な状況の中、激戦を展開、ついに金州海にて、恩師狼刃を涙をふるって倒した。その余勢を駆って、まもなく全五丈を平らげる。

【雲海入道】うんかいにゅうどう

雷の長年の戦友。かつては高僧に使える身分でもあったが大酒飲みが仇で宗門を追われた破戒坊主。だが、雷にとっては最も頼りになる豪傑である。終始、雷と行動を共にし、右腕として活躍する。雷の密命を受け、暴政下の武王都に残り、麗羅の保護を依頼され、その身柄を無事雷の元に届けた。

【太助】たすけ

雷と同郷であり、幼い頃から雷を兄として慕う。その小さな体に似合わず、雲海と共に各戦場を転戦、修羅場をくぐり抜けた強者でもある。この度の偽帝討伐戦においては、帝都斉王都奥深く潜り込み、師真と図って、敵謀将骸延の失脚を画策するなど身軽さを生かした活躍が光る。

【大覚屋師真】だいがくやししん

南京楼の豪商大覚屋の放蕩息子。普段は酒色に溺れ、甚だ評判が悪い。だが、その知謀たるや史書、経書から兵法、天文、医学に精通した天才的な戦略家である。自分自身もその知謀で天下を動かすことを夢み、並みいる諸侯からの度重なる招きを全て固辞し、時を待つ。やがて、その南京楼に雷が赴任、紫紋に横恋慕した師真は、城に出入りし、次第に雷に傾倒していく。雷挙兵時には、軍師としてその才覚を余すことなく発揮、劣勢下の南京楼軍を勝利に導く。

【紫紋】しもん

敗将阿曹主禅の一人娘。皇室の血を引く唯一人の王女故に、悲しい運命にもて遊ばれる悲劇の娘である。実の父阿曹主禅を雷に殺され、五丈に身柄を引き取られ、恩賞として敵でもある雷の元に預けられる。だが、雷とはそれを乗り越え深い愛情を寄せ合う。その後も、雷を陰日向に支えていく気丈な娘である。

【麗羅】れいら

男勝りの五丈の王女。弾正という強大な権力を背景に我がまま放題である。雷には興味を持ち、紫紋とよく対立し、反乱の罪をかぶせて殺そうとした事もある。弾正の死後、骸羅と結び、五丈を乗っ取る。その後、国を追われ、雷の命を受けた雲海に保護され、雷の元に落ち着く。

【孟閣】もうかく

冷静で勇猛な剛将で、南征以後、常に副官として経験不足の雷を適切に補佐する。歴戦の強者であり、その豊富な戦歴に裏打ちされた知識と経験を基に、よく雷を助け、軍事部門の責任者として、その覇業に重きをなす。

【三楽斎】さんらくさい

南京楼軍の武将。主人運が無く、自分の出世のために各赴任地を転々とする。その処世術のために孟閣らにはよく思われていないが、彼自身極めて有能な官僚であり、弁舌の才をもって雷を補佐し、外交、内政面において活躍する、能吏派軍人。

【鐘士元】しょうしげん

南京楼軍の武将。雷の師団長時代以来の宿将。勇猛果敢、常に先鋒を受け持ったが、師真の様な新参者とは反りが合わず、常に対立するが、初戦において師真の知謀を認め、その指揮下に入り、金州海の決戦に於いては顕著な活躍をする。

【姚文】ようぶん

南京楼軍の武将。鐘士元等と共に雷の股肱の臣である。やはり師真とは合わなかったが、その命には逆らわず、

よく戦い、骸羅討伐の前哨戦を勝利に導く。その後も、金州海や各地の戦いに於いて戦功を上げ、雷の五丈平定を助ける。

【項焉】こうえん

南京楼軍の勇将。南天との国境近くに根拠を持ち、部下三千を従える大海賊。やがて雷の度量の大きさに感服して

一族郎党共々帰順、齢七十になんなんとするが、水を得た魚のように活躍する。

［項武］ こうぶ

項焉の息子で怪力無双の暴れ者。八十斤はあろう大斧を片手で軽く振り回す豪傑である。父と共に雷に帰順し、その武勇を買われ、常に先鋒を任される。多分に深慮遠謀が欠けるところもあったが、敵味方共に認める、千軍万馬の強者である。

［林則嘉］ りんそくか

南京楼軍の謀臣。若い頃は風采も上がらず誰にも相手にされずにいたが、城内に出入りしている間に師真に見出され、雷輔翼の人物として師真と双璧をなす。天才肌の師真に対して、地味ながらその誠実さを持って数々の献策をし、雷の地盤の発展を図る。特に金州海の決戦に於いて逸る雷を諌めたのは特筆される。だが師真の唱える「覇」には疑問を持つ。

［如晦］ じょかい

東河の七賢人と呼ばれた処士の一人。士官をせず、しばらく田舎に於いて晴耕雨読の生活を送っていたが、右大臣西豹により推薦され、五丈を平定した雷により、三顧の礼を持って迎えられ幕下に入る。玄偉の殺害を雷に強く勧めた。

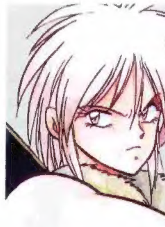
［独眼竜正宗］ どくがんりゅうまさむね

父先代正宗の死後、弟虎丸を擁して智の国の国政を司る。女将ながらその戦略、行動力で、南天連合軍の盟主として五丈の南征を頓挫させた。戦後、南天の統一に専念、事実上、それを成し遂げる。しかし、その後の北伐中に、練の陰謀により叔父丁儀を中心とした国内の造反が勃発、次第にその権力を失い失脚する。大将軍として軍を掌握するがその行動は著しく制限され、座王都に隠棲させられる。しかしその雙眼の奥には天下を狙う光があった。

［飛竜］ ひりゅう

正宗の側近で知恵袋。親衛隊長として常に正宗の側にあり、犬馬の労を惜しまない。弾正の南征においても的確に正宗を補佐し、雷の猛攻より正宗を守り抜く。弾正の余命の短い事を予見し、又、羅候の動きに警戒するよう正宗に進言するが…

［虎丸］ とらまる



正宗の弟。智の嫡子である。国政、軍事を姉である正宗に全て任せているが、正宗の命により、練の羅候との修好のために義兄弟の契りを結ぶ。北伐の際、正宗失脚のために智王に祭り上げられる。

［羅候］ らこう

練国国王。父羅鵺の死後、兵権を受け継ぐ。最初は南天の大国、智に従属していたが、徐々に勢力を広げ、南蛮王国王女、邑峻を嫁取り、その地盤を強固な物にする。正宗の北伐時には、隙を突き南帝閣を占拠、虎丸を智王に立てて正宗の失脚を図る。南蛮王の死去後、その王位を継ぎ、練・南蛮二国の盟主となり南天に揺るぎない地位を築く。雷の偽帝討伐戦に於いては中立を宣言、だが、その野心に満ちた瞳は銀河中央を睨んでいる。

［姜子昌］ きょうししょう

練国きっての名将。若くして、練軍の大都督に任じられ、羅候を補佐し練国の発展に尽力する。正宗による早期銀河統一を阻止するべく画策、幼王虎丸を立てて正宗を失脚に追い込む。だが誰よりも正宗の恐ろしさを知っており、その警戒を怠らなかった。飛竜とは浅からぬ関係か?

［蹄庖］ ていほう

練の若き武将。姜子昌の右腕ともいわれる参軍校尉である。知勇に秀でて、智、五丈、南蛮に囲まれた羅候を助け、奮闘する。戦功だけでなく、南蛮や正宗の元への使者として、首尾良く務めを果たすところも、彼の非凡な才能を示している。

［夏候才］ かこうさい

羅候配下の有力な武将。南蛮の重臣、夏候獣の息子である。羅候が南蛮の王位に就いた時、兄の夏候牙と共に反対し、クーデターを試みるが失敗、羅候の前に引き出されるが、その人物の器量の大きさに感じ入り、その後羅候の陣営に加わる。夏候一族は昔からその勇猛さで知られている。

［夏候獣］ かこうじゅう

南蛮王、琥瑛罵洲に仕えていた名将。南蛮の名門夏候氏の頭領でもあり、老齢ながら任侠気溢れる豪傑。羅候への王位禅譲を支援し奔走した。南天軍の重鎮であり多くの将官に敬われている。

［龍緒］ りゅうしょ

夏候獣と共に琥瑛罵洲、羅候の二君に仕えた老臣。血気にはやる若き王の良きご意見番であり実質的な宰相職にある。法令、兵法にも

造詣が深く今回の北伐にも帯同するが数多い将官の中にあってはどちらかと言えば慎重派である。

【邑峻】 ゆうしゅん

南蛮王琥瑛罵洲の一人娘。羅候とは許婚の仲である。南蛮王国との連携を強めるために、羅候の元に輿入れする。百人に及ぶ女兵士を従えるなど相当なじゃじゃ馬ではあるが、花嫁修行は熱心だった。得意料理は七色餃子のてんこ盛りで宮殿内を餃子だらけにしてしまった。とにかく羅候が好きで好きでたまらない若奥様である。

【神楽】 かぐら

練国武将。邑峻の遠縁の血筋で白象を駆り八十斤の鎖鉄槌を振り回す猛者である。他の南蛮人に見られるように相当に気性が激しくプライドも高い。女将を軽く見る姜子昌とは何かと対立するが彼にはほのかな恋心を抱く。今後の展開は？

【玄偉】 げんい

五丈四天王の一人で凄腕の謀臣。帝国崩壊後の戦乱の中、元帝国側の有力な武将であったが、早くも帝国の再興に見切りを付け、弾正側に寝返り、弾正に重く用いられる。骸羅の反乱の際、華玉、鳳鳴共々、殺害されたと思われていたが、某所での生存が骸羅の知るところとなる。雷の偽帝討伐戦に暗躍、部下の華玉と西羌王秦罵の許に身を寄せる。やがて、彼を抱き込み戦局の最終段階に於いて参戦し、斉王都の戦いでは雷を出し抜き、幻術を操り偽帝骸羅を倒す。その後も一勢力を維持し、新政府の中で雷と対立する。

【華玉】 かぎょく

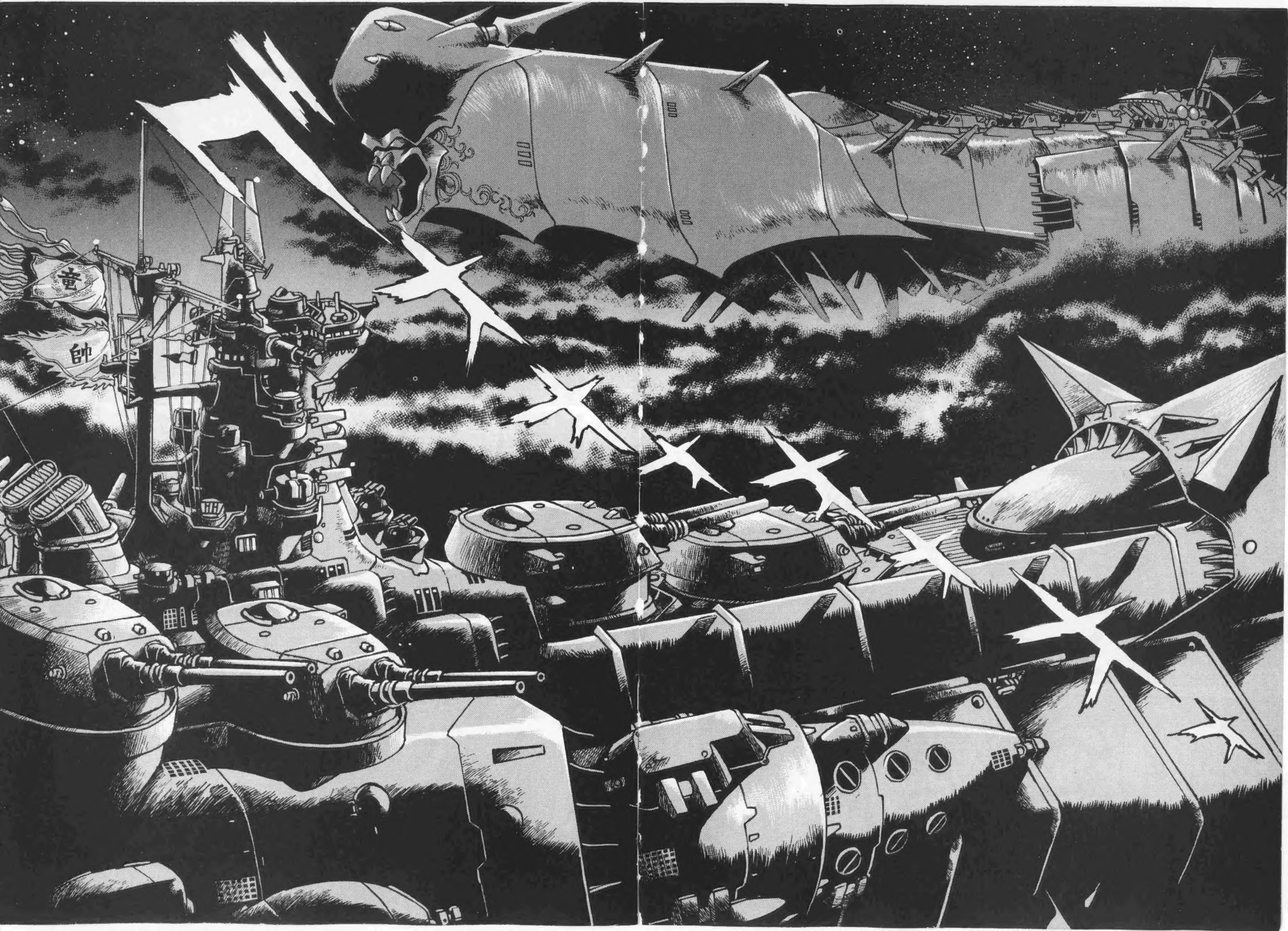
玄偉の腹心。李張道師の高弟で、その秘められた力で玄偉に適切な助言をする。弾正の死期を予測し、玄偉を天下人にするため暗躍する。骸羅の反乱の混乱時に玄偉と共に消息不明となるが、骸羅の対決を前に現れ、策謀を巡らす。斉王都では師真と功を争うが、寸での所で破れる。

【秦宮括】 しんていかつ

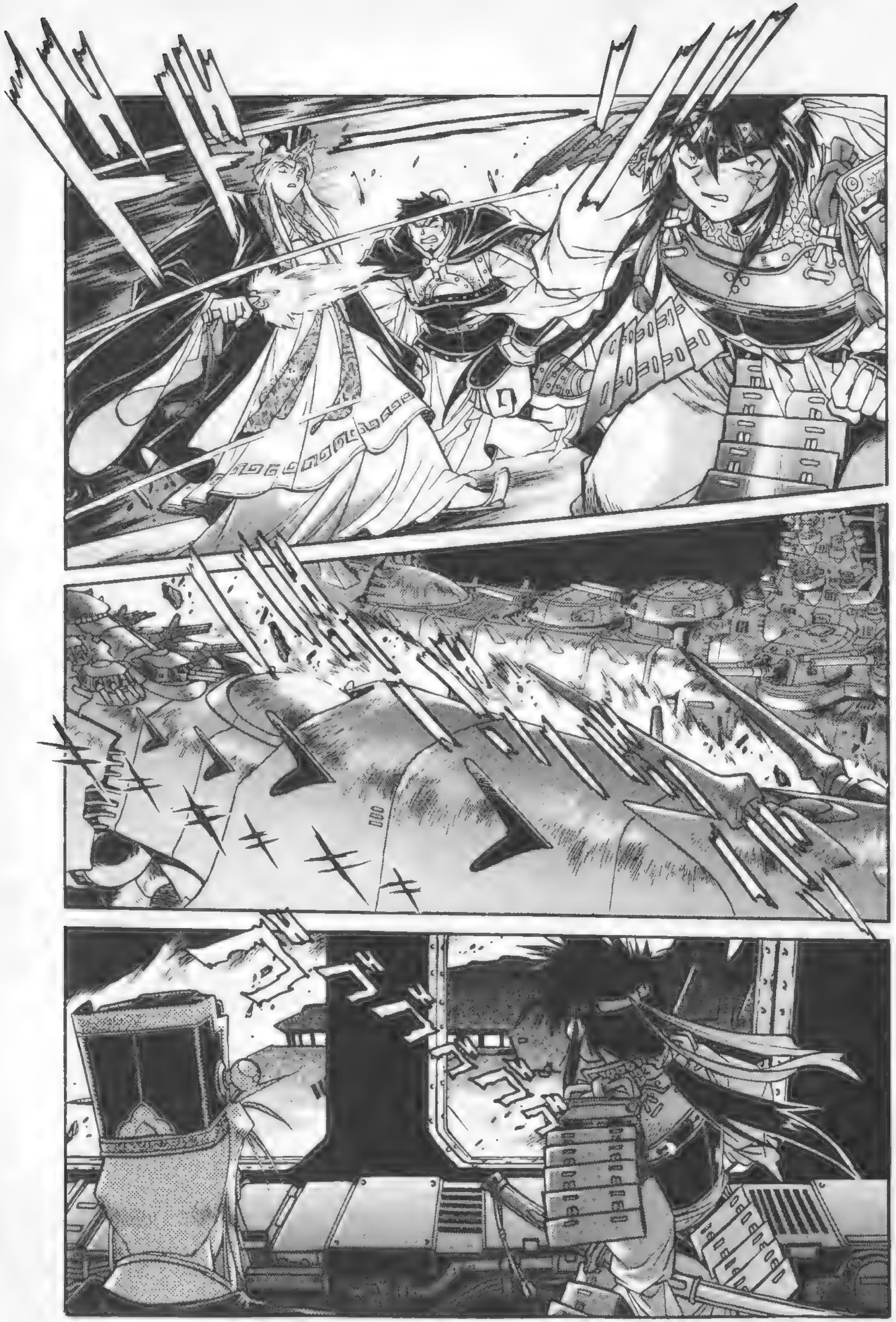
西羌王秦罵の息子。西羌一の豪傑である。父親に近づいた玄偉を嫌い、かえってその怒りに触れ謹慎させられる。秦罵が雷に倒されたのを知り、叔父秦起と供に五丈に復仇戦を挑む。迎え討った項武の軍と激戦を繰り広げ、強者ぶりを発揮する。

各軍団の将はそれぞれの戦果を報告し
その手柄が軍功帳に書き留められた
だが師真は勝利の凱歌をあげることは許さなかった
それは……
空の一点を見据えて微動だにしない雷の姿があったからだ

ひどく荒れてきたな
黒雲まで出てきた……
敵状の情報収集法と理論にかなった戦法……
鮮やかだったな師真
法と理論か……それだけで勝てれば何の苦労もない……
世の中には人智の及ばない戦いがあるそうだろ雷……!
そうだ!!


竜
帥

おお あれは……!!
正宗の旗艦大帝山!!



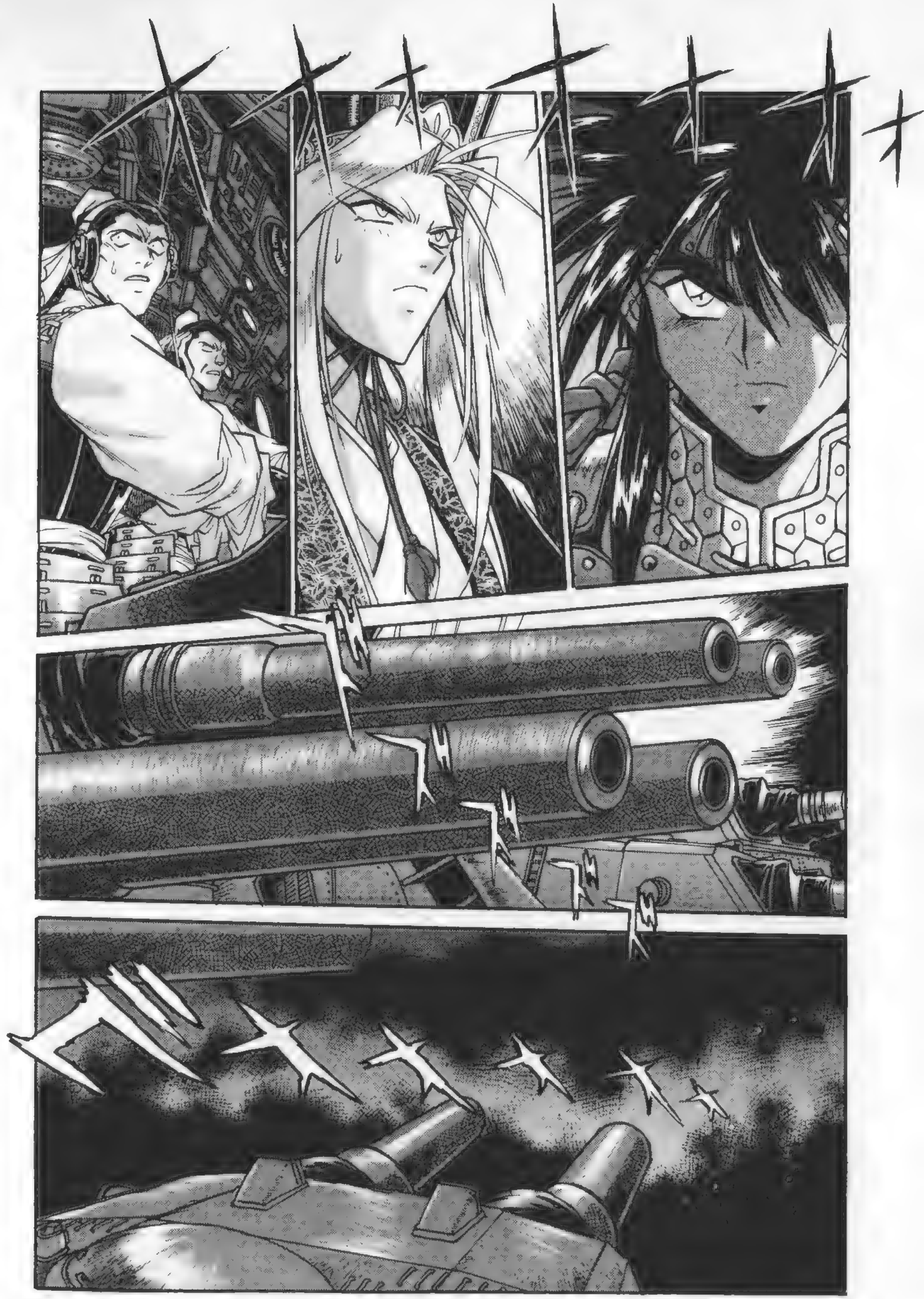
間違いねえ
正宗だ!!
野郎
たった一隻で
出てきやがったか!!
騒ぐな!!
竜王!
これは
俺と正宗の
戦いだ……!!
他の連中に
邪魔しないように
伝えろ!!
手出しした奴は
斬る!!
わかっております
ご存分に……!

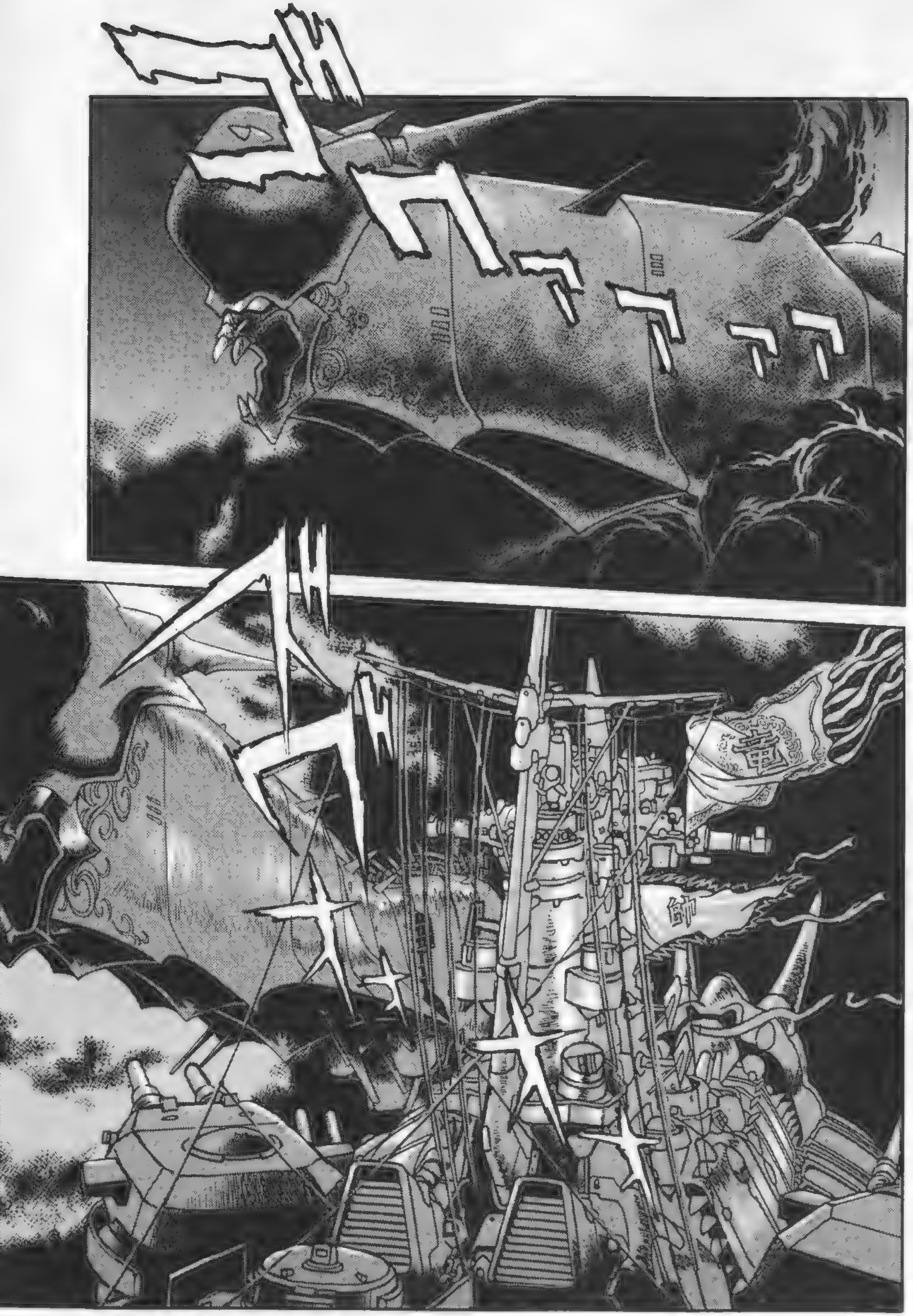
よ──し！
総員砲雷撃戦準備！
速度をあげろ
反転だ!!
速度第三戦速！
急速反転一八〇!!

竜王！
全艦戦闘準備完了!!
わかった!!
大帝山の位置は？
それが後方の黒雲の中に入ってしまって見失いました
聴音機は!?
エンジン音を捕らえたか!?
だめです
悪天候のために音が拡散してしまいます

ゴオォォォォォ
まずいなぁ これじゃあ 敵を補捉できねぇ
それは お互い様だ
針路 そのまま！ 左砲戦準備！ 水平射撃だ!!
ええっ!?
ゴオウッ!!

ズオォォォ
竜王！
わかるんだよ 俺には……！
あいつの臭いがな！
あの時と 同じようにな！





ドンピシャ!!
全砲門開けぇーーっ!!
てーーっ!!

うわあっ!!
くっ!!

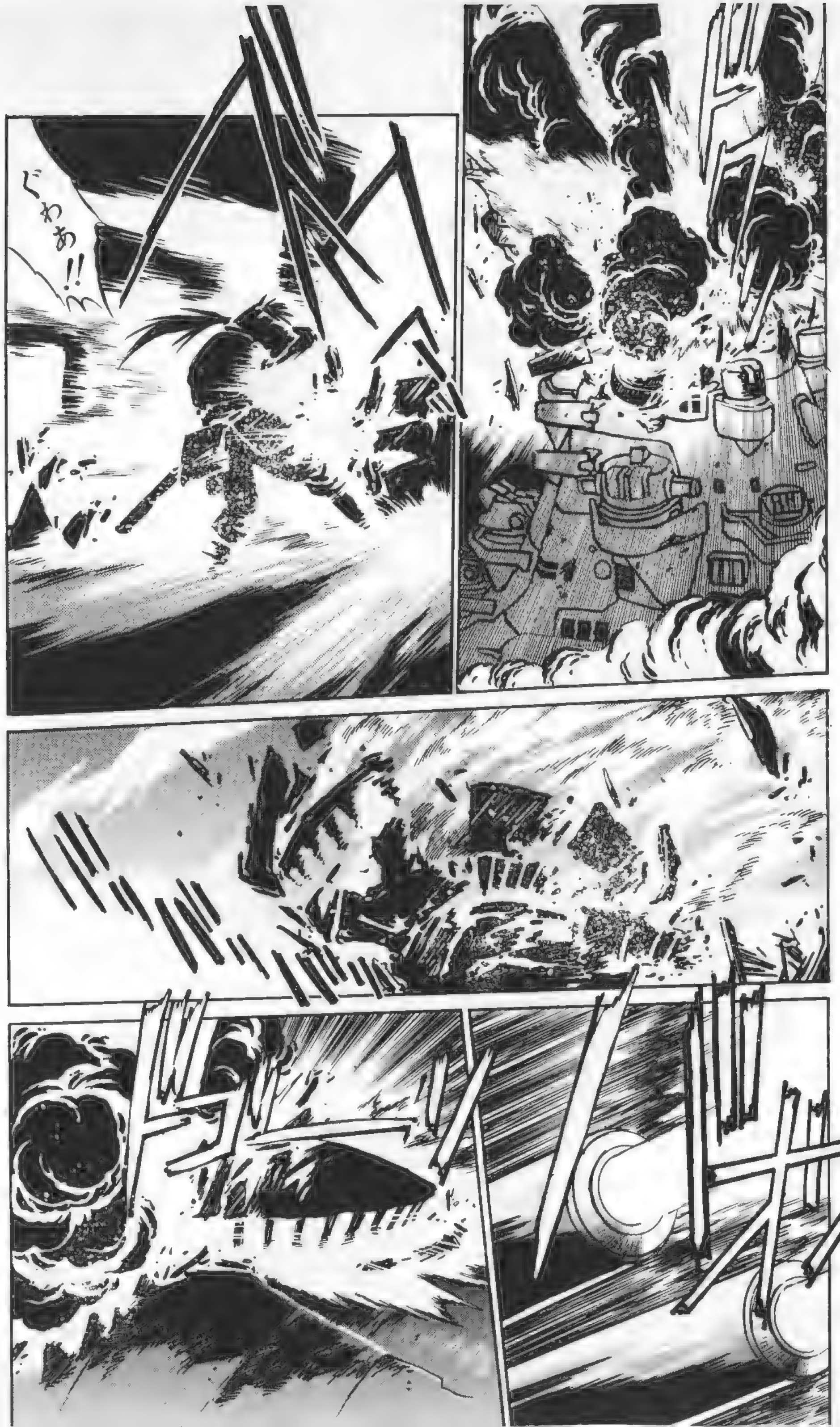
消火班急げ——っ!!
水がでねえぞ!!
第三砲塔の注水急げ——っ!!
損害を調べろ!!
大帝山を見失うな!!
主砲　再装填!
グズグズするな——っ!!

いやはや真正面から殴り合ったったってかんじだなこりゃ……
奥の装甲塔に入ってろ!艦橋に直撃食らったらおしまいだぞ
よっ
師真
おいおい今さらそりゃねーだろ
俺も興味あんだよ人智を超えた戦いってのにな………!!
大帝山反転しまーす!!
よしこっちも反転だ次は右砲戦だ!

第五第六砲塔使用不能！
第一砲塔二門がダメです
左舷缶室直撃！
蒸気がきません!!
正宗……
声がかけられない
……!!

て——っ!!

うわあっ
ひるむな!!



ぐわぁ!!

第八砲塔温度上昇危険です!!
なにっ!?
第八砲塔注水——っ!!
どうした返事しろ!!
伝令!走れ!!

どうした
だれも
いないのか!!
伝令!!
正宗様!
あたしが
行きます!!
頼む!
正宗様……
必ず
勝ってください……!
智のためにも……
そして……
同じ女の身で
戦場に出た
者達のためにも……!!
わかっている……
ダッ
飛竜……
今まで
苦労をかけた……

ゴゴゴゴゴゴ
師真
大丈夫か!!
おいっ!
あ…ああ
生きてるよ
竜王様
操舵手負傷——っ!!
孟闇!
まだカンは
鈍ってねえな!
舵を頼む!!
わかりやした!
おまかせを!!
大帝山は!!

また来るぞ——っ!!
師真!
正宗は真の英雄だ……!

こんな戦国の世でしか会えなかったのが残念だ
いつかゆっくりと天下人としての教えを乞いたい……

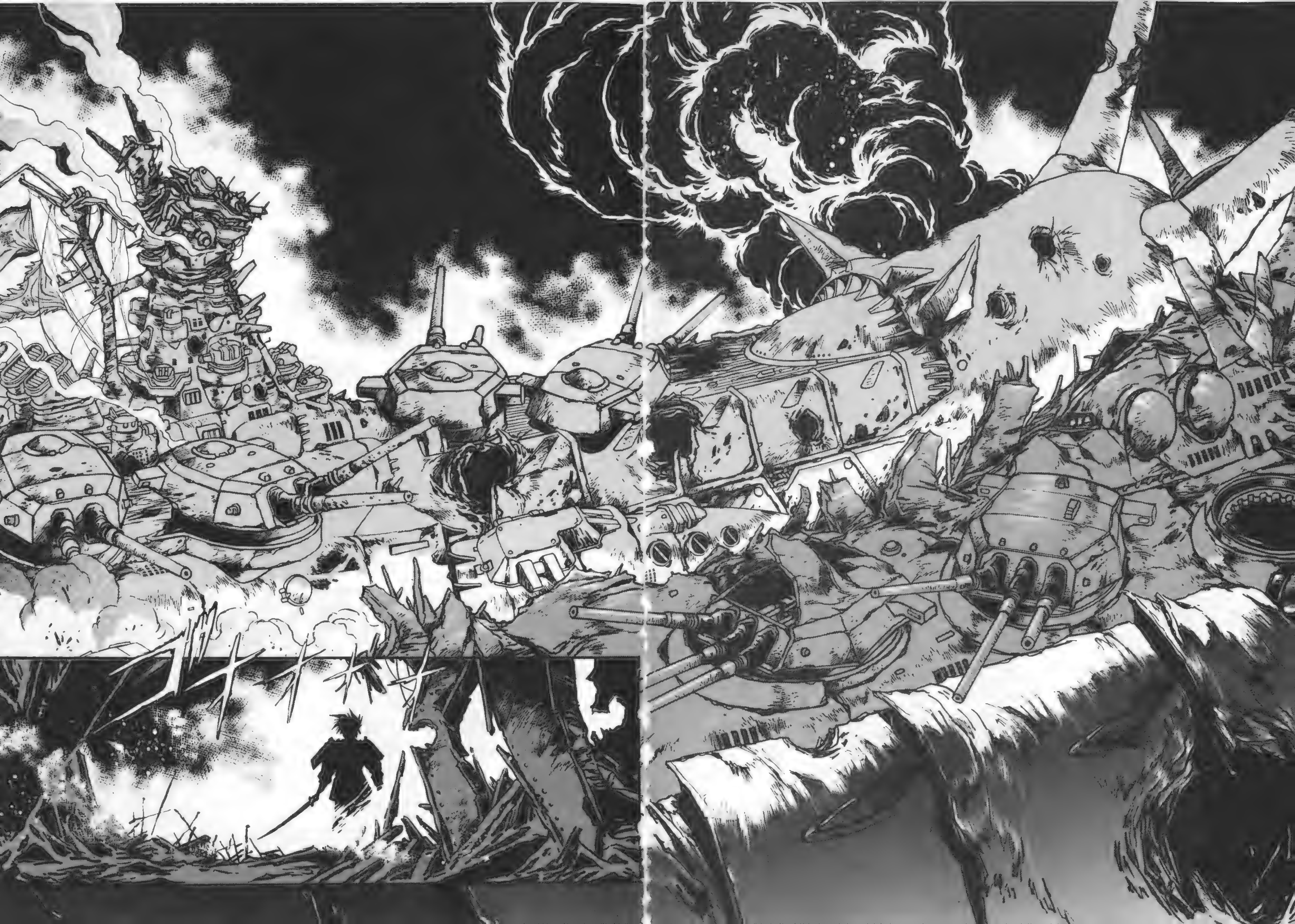
真正面だぜ!!
かまわん!!

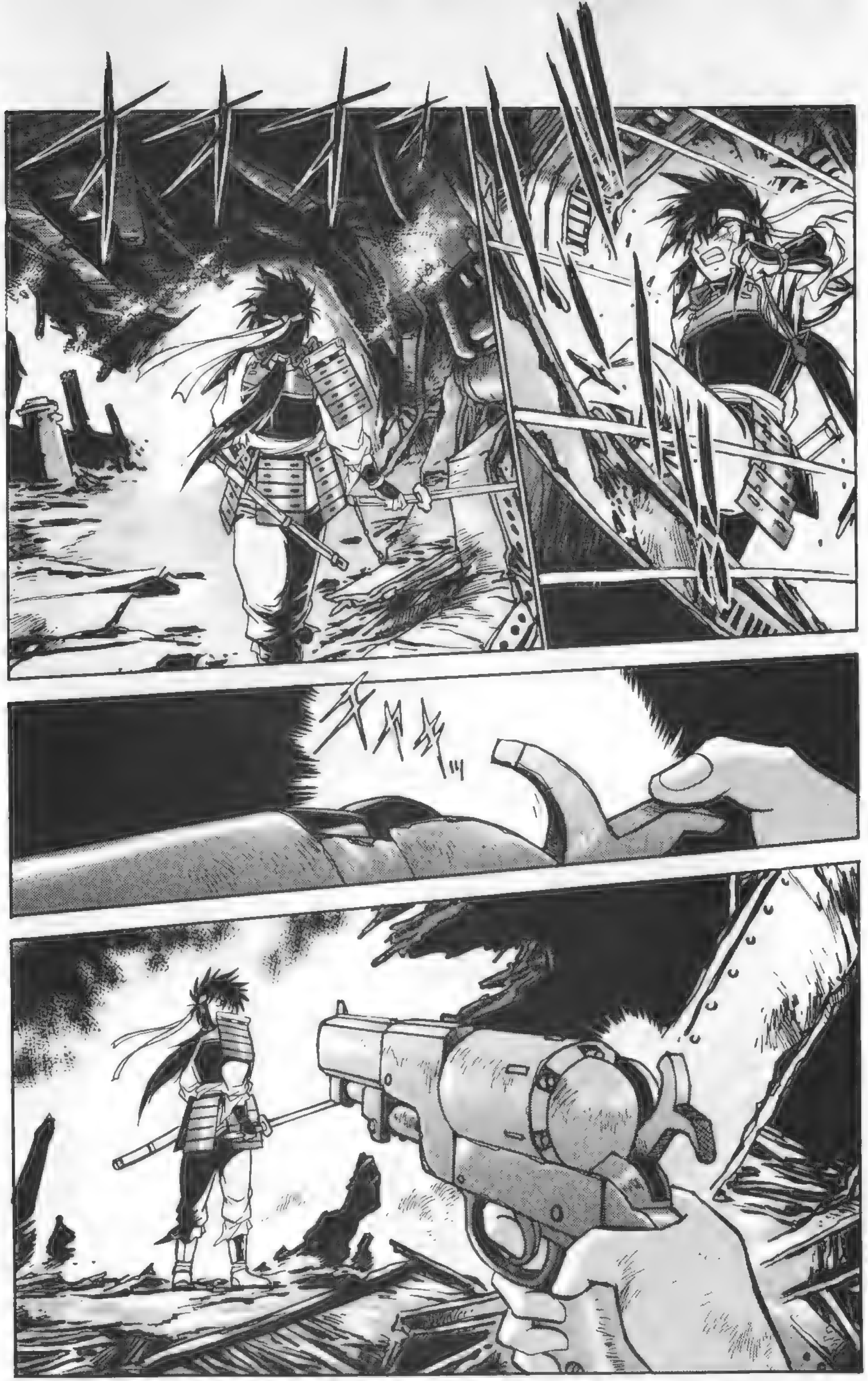
竜我ぁぁ!!

正宗(まさむね)ええ!!!

いけーっ！

虎丸(とらまる)……!!


グオオオオ


オオオオ
チャキッ

!!
わたしの……

負けだな……!!
正……
正宗!!

俺は……
おまえに勝ったのか……
正宗……
そうとも……堂々たる勝利だ……
見事だよ
俺は……俺はおまえに勝つことが夢だった……
おまえが……独眼竜正宗が目標だったんだ

それは光栄だな……
大願成就してみて気分はどうだ…？
わからねぇ……
何も感じねぇんだ……
ふ……
いい男になったじゃないか雷……
そうか…？
女をとうの昔に捨てたわたしだがおまえは唯一惚れた男だよ……

遠く星の海の果てにいるおまえの闘気がわたしにはわかった……
後にも先にもこんな気持ちにさせてくれたのはおまえだけだ……
照れるな……
ま……正宗様…!!

正宗様!!
おのれ—— 竜我ぁ——っ!!
やめいっ!!
正宗様!!
もう終わったのだ 飛竜………

くっ……
飛竜…… よく聞け……
よいか…… もし 智王に 天下の覇者となる 才あれば補佐して 五丈・練に 挑むがいい……
だが…もし その器で なかったら…
五丈に降るのだ…!!

正宗様……!!
これ以上智の将兵や民を苦しめてはならん……
いいか決して練に降ってはならんぞ
練との間には長年のうらみつらみがたまっている……皆殺しになろう……
これをわたしの遺言として智王にお伝えしてくれ……
は……っ!!
雷……勝手な申し入れだが聞き入れてくれ……
ああ…
悪いようにはしない……

これでもう思い残すことはない……
もう行ってしまうのか正宗……
俺はおまえにいろいろ学びたかった…! 教えをこいたかったんだぞ!!
栄・枯・盛・衰……
この四文字を胸に刻んでおくがいい……
栄・枯… 盛・衰…

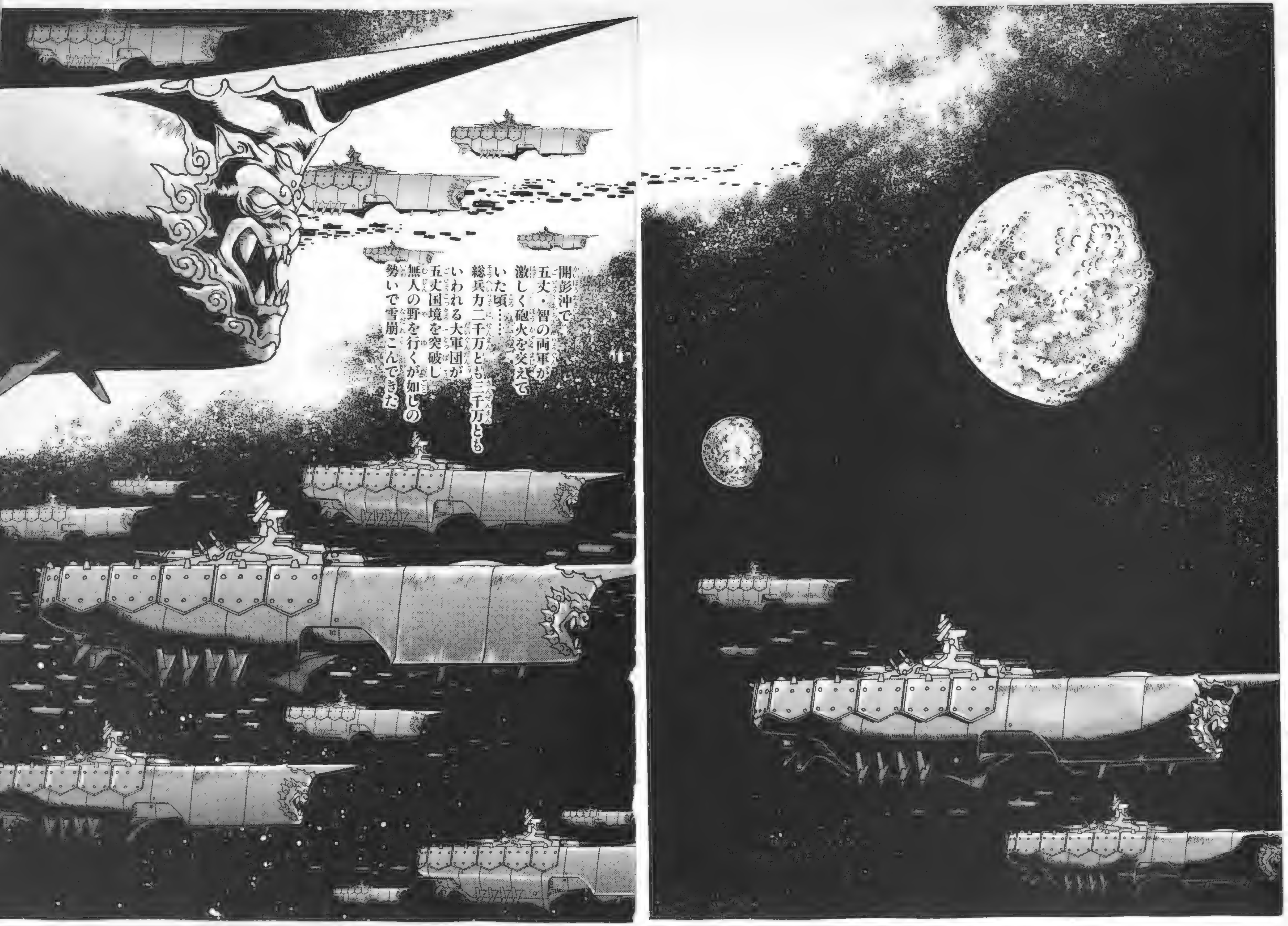
二人に頼みがある……
なんでございましょう……
わたしに星空を見せてくれ……

雲も晴れた……
どうだ正宗
……
きれいだ……
この星空は昔と変わらずあくまでも蒼く美しい……
もうすぐわたしはあそこに行けるのだ……

ああっ!!
正宗様!!
正宗!!

そこには物言わぬ正宗の姿があった
ひとたび軍を動かせば雷も羅候も……
そして弾正も骸羅も銀河の豪傑が皆恐れた天下人に最も近かった女……
その巨星が今落ちたのであった

独眼竜正宗
開彭沖にて陣没……

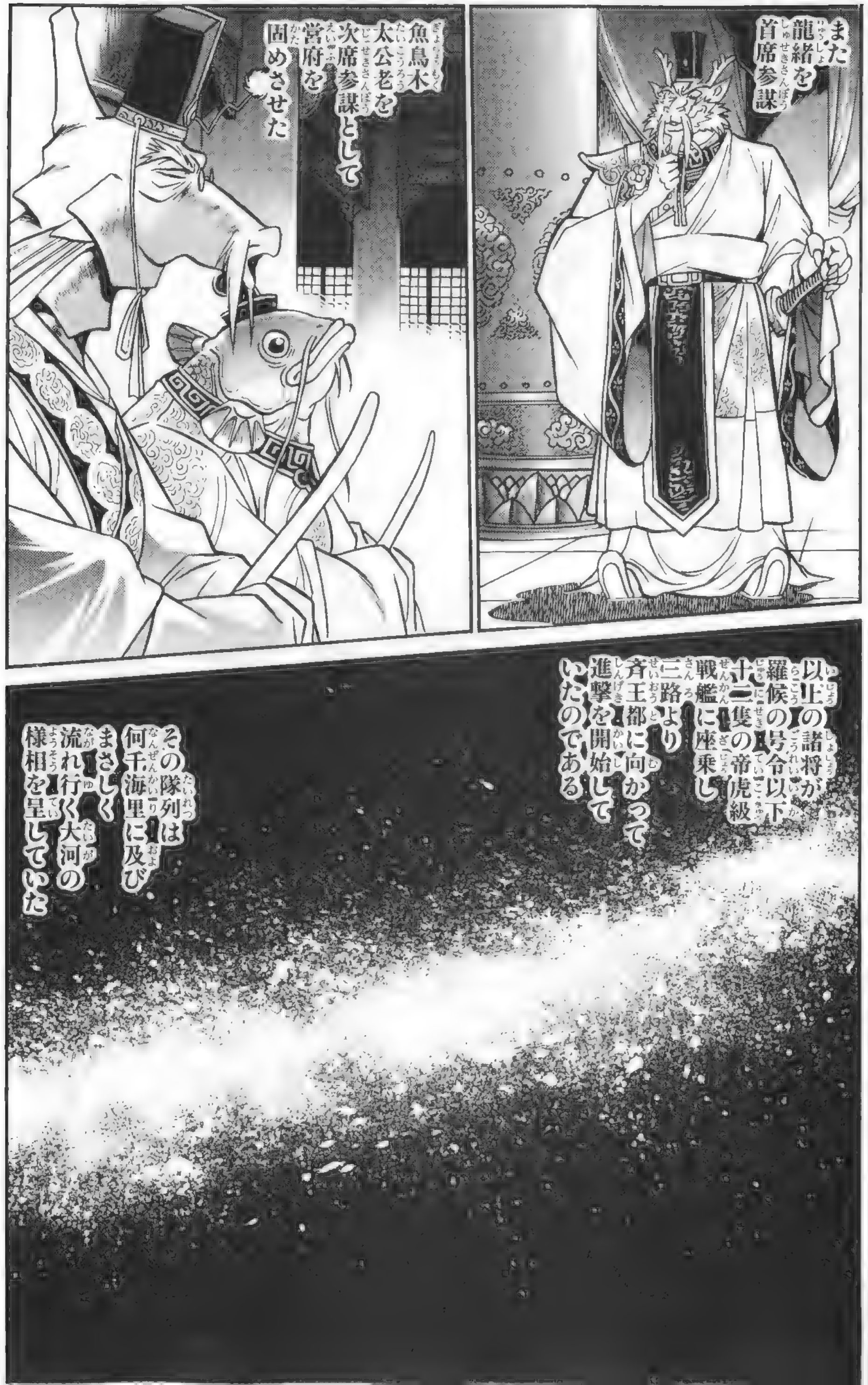

開彭沖で
五丈・智の両軍が
激しく砲火を交えて
いた頃……
総兵力二千万とも三千万とも
いわれる大軍団が
五丈国境を突破し
無人の野を行くが如しの
勢いで雪崩こんできた

今や南天の盟主に君臨する練王羅候の大艦隊である
ゴォウ ゴォウ ゴォウ ゴォウ

先陣は
鎮軍将軍
夏候才
右に
平冠将軍
胡雷
左に
都護将軍
単于
そして
戦力の中核たる
中軍は
夏候才の父で
南蛮の元老でもある
車騎将軍
夏候獣を
筆頭に

撫軍将軍
牙双邪
虎牙将軍
火徳星
輔国将軍
牛魔王
そして
冠軍将軍
濮陽骨
以上歴戦の
武将五人により
構成され
さらに

右軍に
鎮護将軍
金角
左軍には
討逆将軍
銀角を
控えさせていた
指揮中枢たる
大本営には
精鋭軍団を率いる
大都督
上軍大将軍の
姜子昌が
鎮座し


また
龍緒を
首席参謀
魚鳥木
太公老を
次席参謀として
宮府を
固めさせた
以上の諸将が
羅候の号令以下
十二隻の帝虎級
戦艦に座乗し
三路より
斉王都に向かって
進撃を開始して
いたのである
その隊列は
何千海里に及び
まさしく
流れ行く大河の
様相を呈していた

わぁっはっはっははは
皆 心ゆくまで 飲むがいいぞ！
勝利への前祝いだ!!

俺の大軍団の行く手を遮るものなどこの世にあるものか!!
そうであろう!! 諸将よ!!
はは——っ!!
まさしく我が軍の通った道は天下への道！
殿はその道を悠々と歩いていかれればよろしいのです
ふん！
こんな後方にいるのは俺の性には合わんが まそれもよかろう
……
ははは

ほっほっほ いかがなされた 姜子昌殿
さあさ 楽しく おやりなされ
天下の名将たる そこもとの たてた作戦 でしょう
すでに 勝ったも同然で ござる
姜子昌は この戦いの結末など 眼中にはなかった……
ただひとつ敵の軍師 大覚屋師真との 智の戦いに 思いをはせて いたのだった
びくっ!!
こ…これは 失礼いたした
ど…どうぞ お気楽に……

たしかに できる……
大所高所からの 戦略など…… まさに希代の天才と いえよう……
また 儒者にある 潔癖感もない 結果を求めるのなら 平気で悪事にも 手を染める……
竜我との間柄も まさに 水魚の交わりとも いえる親密ぶりだ
軍師としての 最高の条件を 兼ね備えた男だが ……
この世に 完璧なものなど ない……
隙がないのなら 作ってやろう…… 天才軍師に 「隙」をな……!!

おい どうした 邑峻
一緒に行きたいってせがむから連れてきてやったのに
さっきから何も飲んでねえじゃないか
ん？
ん——— ちょっとね———
お酒を控えるよーにって言われたの
控える…って だれに？
お医者！
なんだ おいっ 身体のどっか悪いのか!?
ふふ あのねー♡
殿！ 先陣の夏候才様より報告です
ああ そうか よし 読め！

「現在 第二国境防衛線を突破！敵の抵抗は微弱 全て予定通りである」とのことです
よーーーし 進撃速度をあげろ！
それから全軍に伝えい！
我が軍団の通った跡に五丈の臭いを残すなとな！
街も何もかも焼き払え!!
住民は皆殺しか奴隷かだ!!
五丈の街を一つずつ地図から消してやるんだ！
俺が新帝国を作るとき便利なように五丈を均してしまえ!!

この戦いが終われば首都を銀河中央に移す！
大王宮を造るぞ！もちろん五丈の奴隷どもを使ってだ！
うわはははは
う〜〜〜ん……
なんだかいいそびれちゃった
まいっか……まだ目立たないし……
ね♡
ゴオオオオオ

ゴオオオオオ

羅候の命を待つまでもなく南天軍の兵士は五丈の街々を焼き払って進撃した
「武」を尊ぶ南天諸国にとって銀河中央の文化・文明など吐き気をもよおす存在だったのだ
しかも天下統一の後南天の民を移住させるつもりでいたので五丈の民は存在する必要がなかった
殺すか奴隷にする以外の価値を認めていなかった

それは雷の旗揚げの地南京楼とて例外ではなかった
あああ……
燃える……わしの……わしの店が……
父上しっかりしてください
命さえあれば……店などまた建て直せばすむことです
英真殿……
竜王様は我ら民をお見捨てになられたのかのう……
そんなことはありません！
しかし……
竜王様より賜ったご厚恩をお忘れになりましたか!!
確かに今は苦しい時です！それは竜王様とて同じこと！
しかし我らが耐えてこそ竜王様にも光明を見出すことが出来るのです

うむ
そうじゃ
そうじゃ
わしらは
竜王様を
信じよう
必ず竜王様は
お救いに
こられる！
今は
命を
お大事に……！
嵐の後には
必ず晴れ間が
ありましょう！
戦いの
一番の犠牲者は
なんの罪も
ない人民だ……
いつまで
こんな時代が
続くんだろう……
ゴォォォォォォォ
兄上……

項
おのれ
南蛮の犬共が！
好き勝手しおって……!!
今に
見てるがよい！
竜王様は
一介の海賊に
すぎなかった
このわしを引き揚げ
国の大事たる
この戦いを
委ねてくださった……
息子項武も
一軍を任されておる！
これ以上の
ご厚恩はあるまいて

よいな 皆の者!!
今こそ 竜王様の 日頃のご厚恩に 報いる時ぞ!!
ただし 死に急ぐことは 許さん!!
一人十殺じゃ!! 敵を十人殺すまで 死ぬことは わしが許さん!
死に抵抗し 勇を貫けば 心の中で 勝利を祝えるぞ!!
全軍 突撃!!

夏候才様 敵です! 五丈軍です!!
なんだと! だれの 軍勢だ!!
大旗に 五丈右将軍 項焉とあります!
なにっ あの老いぼれか!
この俺を 甘く見て おるな!
ひねりつぶして ひき肉に してくれるわ!!

てーっ!!
撃ていっ!!

まだまだ
きさまら
ヒヨッコ共には
負けぬわ!!
帰れ!
帰れ!
南天の
ど田舎に!!
ひいいっ
退がれ
退がれーっ!!

ヌウ..!!
…ったく
威勢の
いいじいさんだぜ
家で
庭いじりでも
してりゃあ
いいものを
そんなに
墓穴が
恋しいかよ!
ふん!
その無様な
顔は
胡雷じゃな!!
お見知りおき
感謝するぜ!!

このおおっ!!

足がもつれてるぜ じいさん!!
くっ!!
へっ!!
な……なにいっ!!

うおおお!!
うおっ
足元がふらついているのはそっちではないのか!!
くそうっ!!
覚えていろ!!

項焉の二個軍団は
南天先陣三個軍団を
相手に一歩も
退かなかった……
退いては
集結……
そして反攻と……
ゲリラ戦術を駆使し
大軍を擁する
南天軍を
翻弄した
突撃に
及ぶこと
実に
四十数回!
夏候才の旗艦
「竜虎」の目前まで
迫ったこともあった
夏候才
覚悟!!
将軍!
艦橋直撃
です!!
回避──!!
なにいっ!!

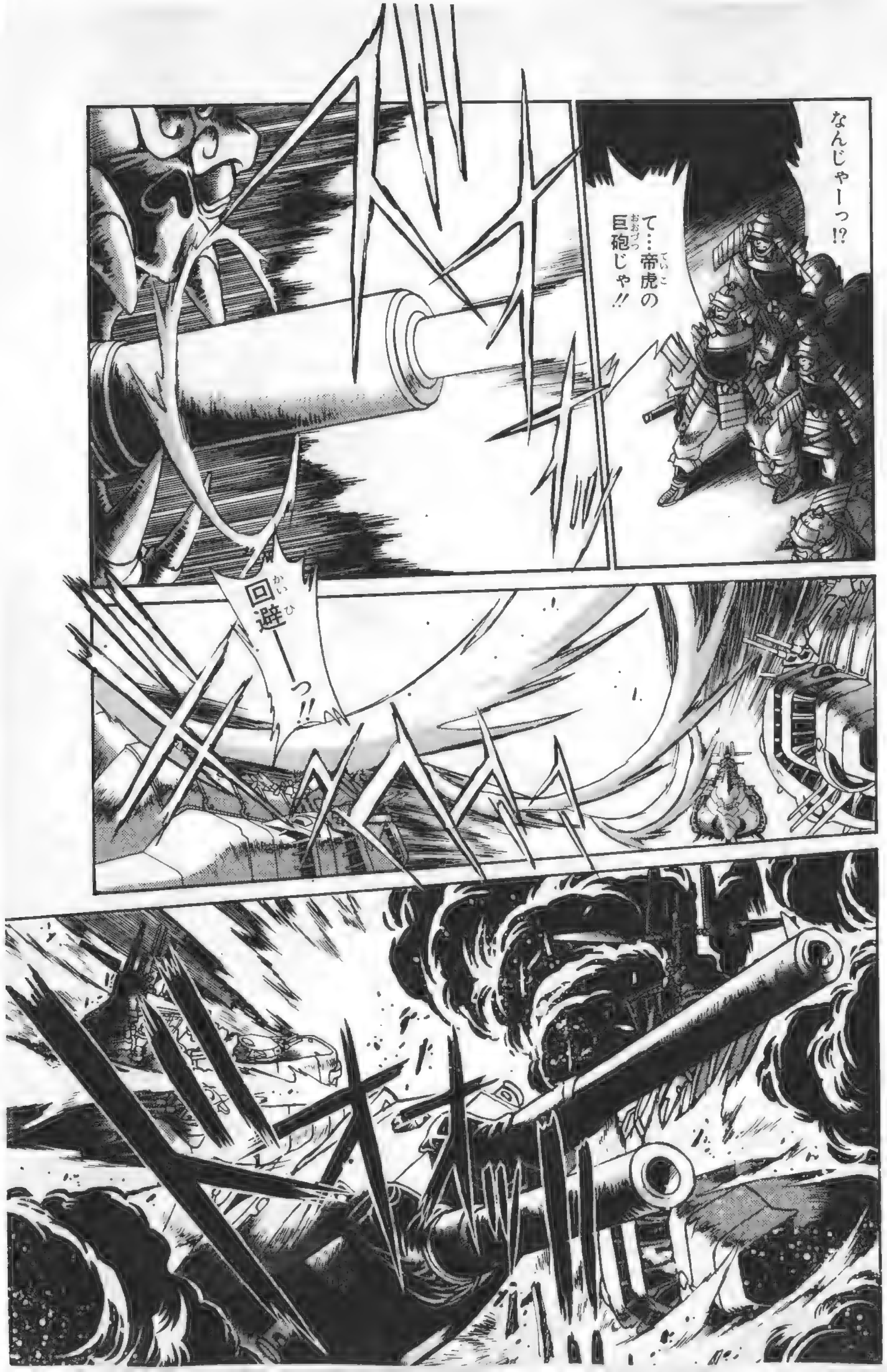
ちっ
でかい図体の
わりにはうまく
かわしたのう……!
三日・五日・十日と……
一向に進展を見せない
最前線の戦況に
楽勝ムードに
浸っていた
南天首脳部は
苛立った……!
まだか!!
まだ
突破できぬのか!!
オイボレ
一人に何を
やっている!!
おいっ
夏候獣に
伝えいっ!!
息子の
不手際を親が
始末しろとな!!
はっ!

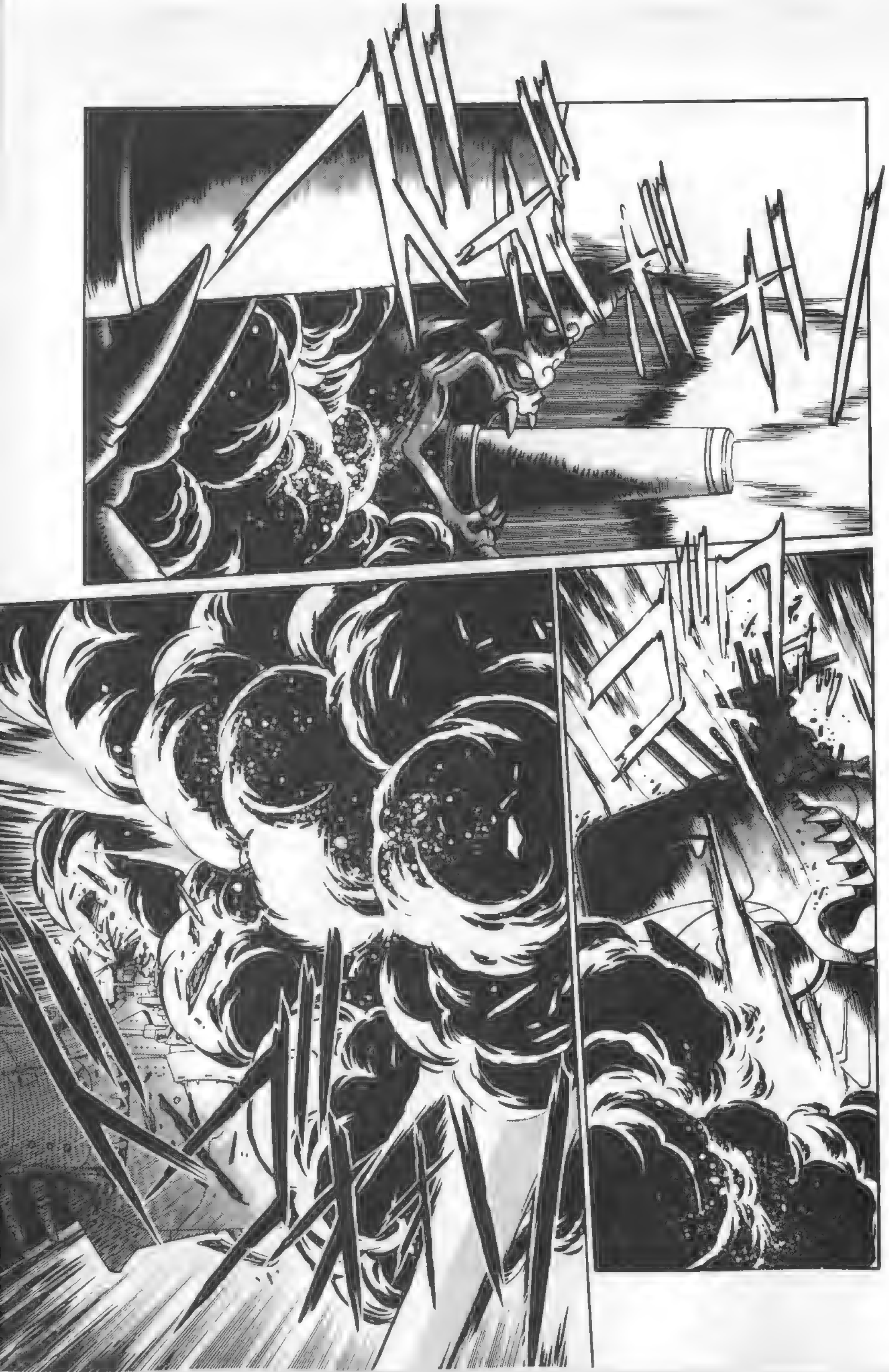
敵将は
項焉と
いったな
はっ
老齢ながら
なかなか
手強い相手で
ございますな
自分の親父と
同じぐらいの
年の男が
相手では
せがれでは
ちと荷が重い
場数が
物言うから
のう
艦首主砲の
準備をせいっ!!

砲甲榴弾
装填完了!!
射撃
準備よし!!

てーっ!!

うお…っ!?


なんじゃーっ!?
て…帝虎の巨砲じゃ!!
回避ーっ!!



ちゅ…中軍からと
思われる
敵増援軍が
参入！
合わせて四隻もの
帝虎が
敵味方いとわず
手当たり次第の
乱れ撃ち！
わが師団も
たちまちのうち
壊乱…!!
無念で
ございます…!!
臆するでない!!
帝虎
何するものぞ!!
この世に
不沈艦など
あろうものか!!
帝虎の舳先をば
斬り落とし
竜王様に
献上するのじゃ!!
全軍！
陣形を
たてなおし
帝虎を討て!!

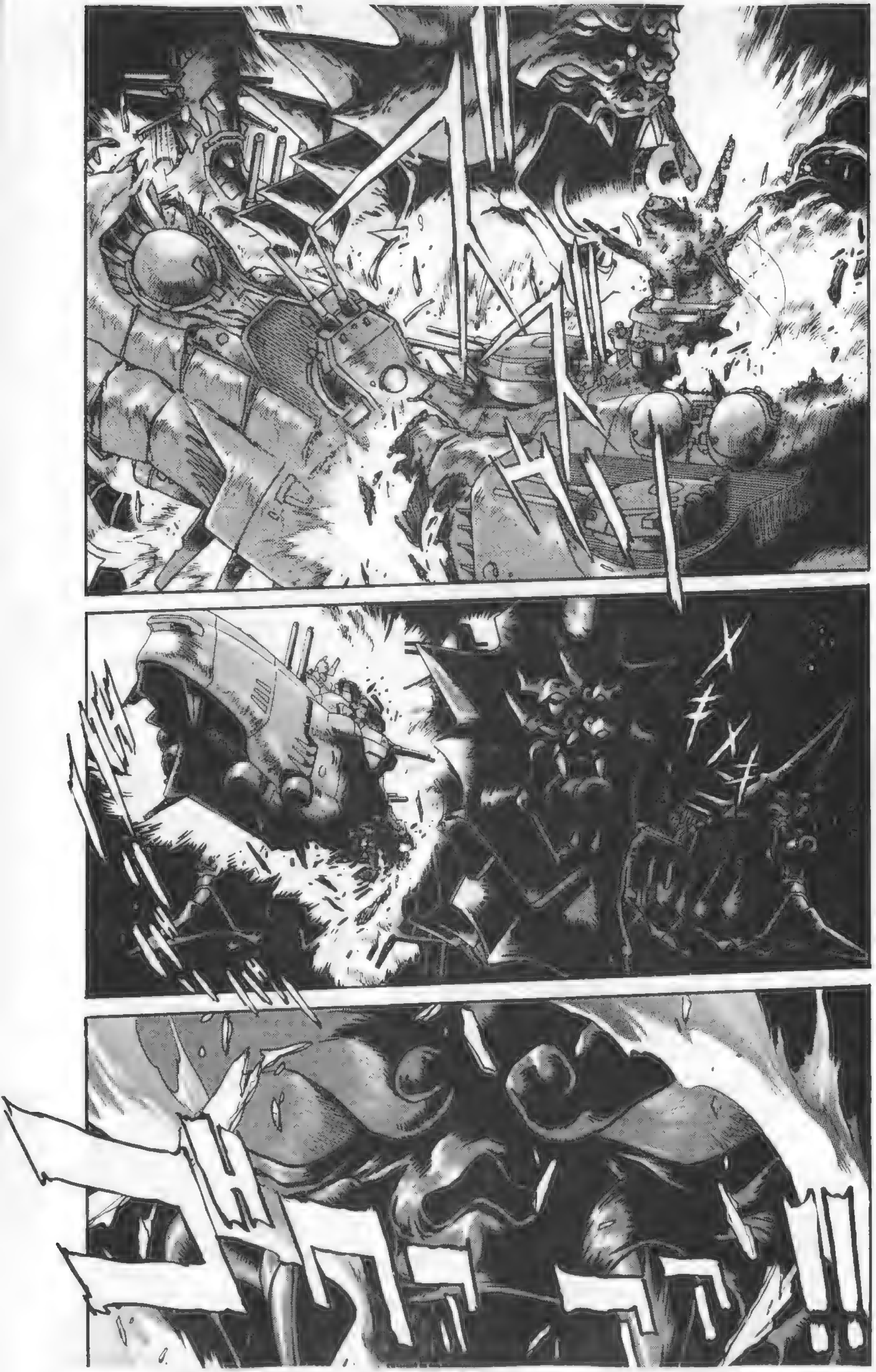
零距離まで
食い込むのだ!!
距離四五〇〇…
四〇〇〇…！
くそっ
何て
でかさだ!!
三〇〇〇!!
発砲よし!!

だめです! 我が方の砲撃はことごとく弾き返されています!!
ぬううっ!!
味方右翼の一部が突入しまーす!!
なにいっ!!
無茶をするな!! もどれ!!
陣形を崩しては勝てんぞ!!
しかし さらに接近し刺し違えない限り帝虎を破壊できません!!
突入します 後をよろしく……!!

くそうっ
この距離で
撃っても
かすり傷ひとつ
負わせられんのか……!!
怪物が……!!

うわあっ!!

うおお…っ!!
おおお…!!



ついてこい
せがれ!!
南蛮の力を
見せつけて
やるのだ!!
おのれ――っ!!
許さんぞ
――っ!!

だが
項焉軍残余と
新たに夏候獣軍の
増援も加わった
南天軍先陣との
戦いは終末を
迎えようとしていた
次々と無尽蔵に
新手を繰り出す
南天軍の
波状攻撃に
疲労も極まった
項焉軍の兵士は
もはや
ささえきれず
戦場を……
朱に染め
散っていった

やりましたな 項焉様!!
敵は中軍まで投入しておりますぞ! 我々は南天軍を十分すぎるほど引きつけました!!
うぬ……! 後は竜王様におまかせしようぞ!!

ぬしら……
よくぞ戦ってくれた…!
礼を言うぞ!!
死んで護国の鬼となろうぞ!
突撃じゃ!!

ぬん!!

むっ!!

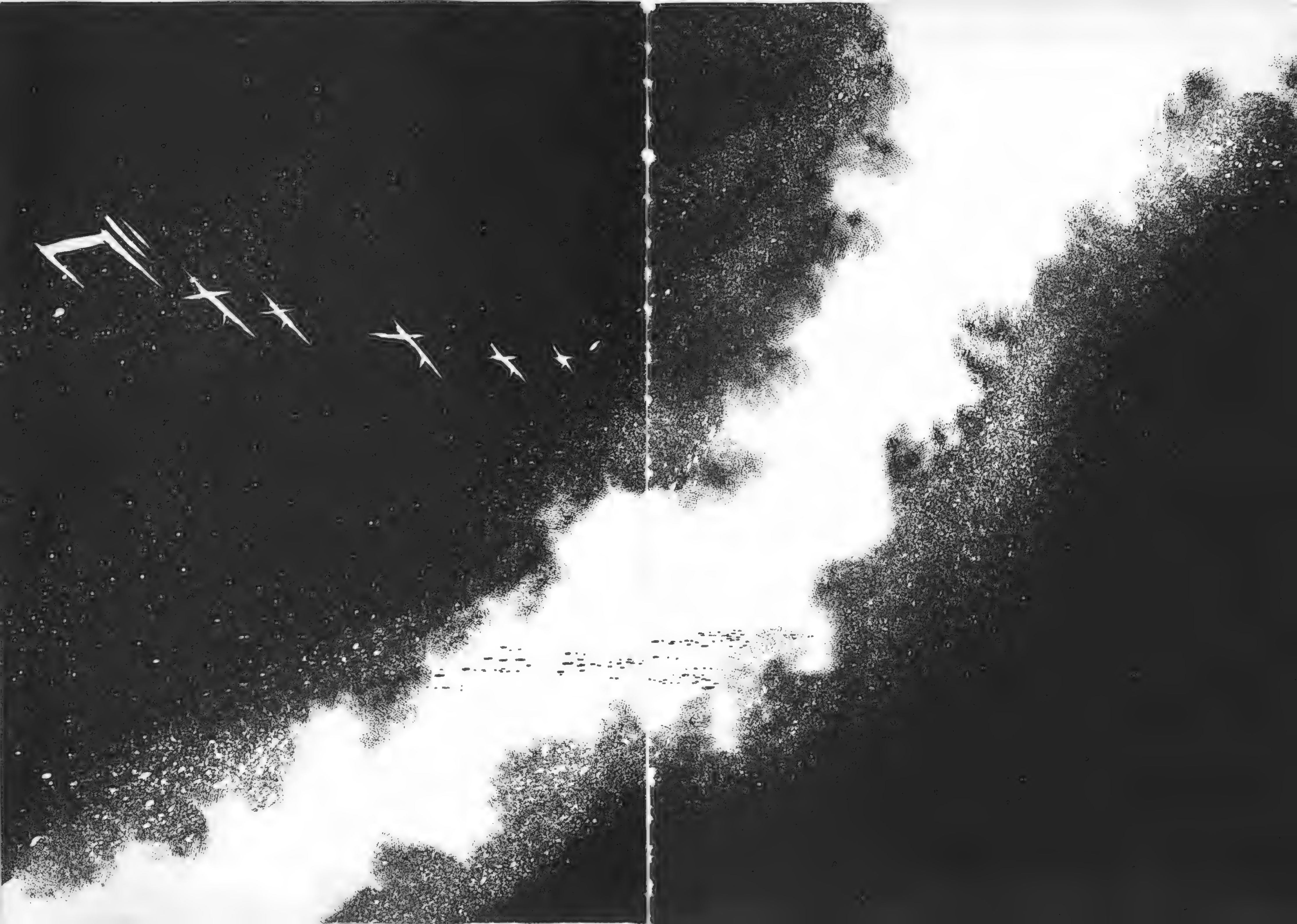
おのれーっ!!

ゴゴゴゴゴゴゴ

ふ……
我ながらよう戦ったわい……

項焉殿！
南蛮の夏侯獣でござる！
貴殿の戦いぶりまことにあっぱれでござった！
ほう……おぬしが夏侯獣か……
年の割にはシャンとしておるの
それはお互い様
雑兵に討ち取られたとあっては武名に傷がつこうもの
お相手いたそう!!
それはありがたい…！

互いに良き主君に巡り合えましたな
ふ……孫のような年のな……
うおおお



あれから
五日……
もう
正宗は
智王の許に
帰った
だろうか……
さあな……
智王の
行在所は
遠いからな……
どうした？
えらく
寂しそうだな
ああ
そりゃ
寂しいさ
その生き方が
鮮烈であれば
あるほど
こっちの想いも
深くなる……
ま
俺だって
人間だ
そう思う時が
あっても
いいだろう
竜王！

孟閣
強行軍で
かなり兵が
まいっております
ここらで一度
大休止を
取らねば
いざという時に
疲労困憊で
戦いに
なりませんぜ
うぅん〜〜〜
安心なされ
わたしの戦略には
それも織り込み
済みだ
しかし
軍師！
もちろん
良薬も
用意してある！
陛下!!
なんだ！
たった今
項焉様よりの
急使が参りまして
これを……！
帝虎
恐るるに足らず
最後の突撃を
敢行す……
!!

項焉・・・!!
竜王・・・・・・
弔い合戦です・・・・・・
みなの闘志は
必ずや疲れなど
吹き飛ばしましょう!!
!!
つまり
これが
良薬・・・・・・
軍師・・・・・・
あんたって人は
まさか・・・・・・!!
その通りだ
責めるなら
責めろ!
項焉を選んだのも
まさに この効果が
一番強いと
信じたからだ

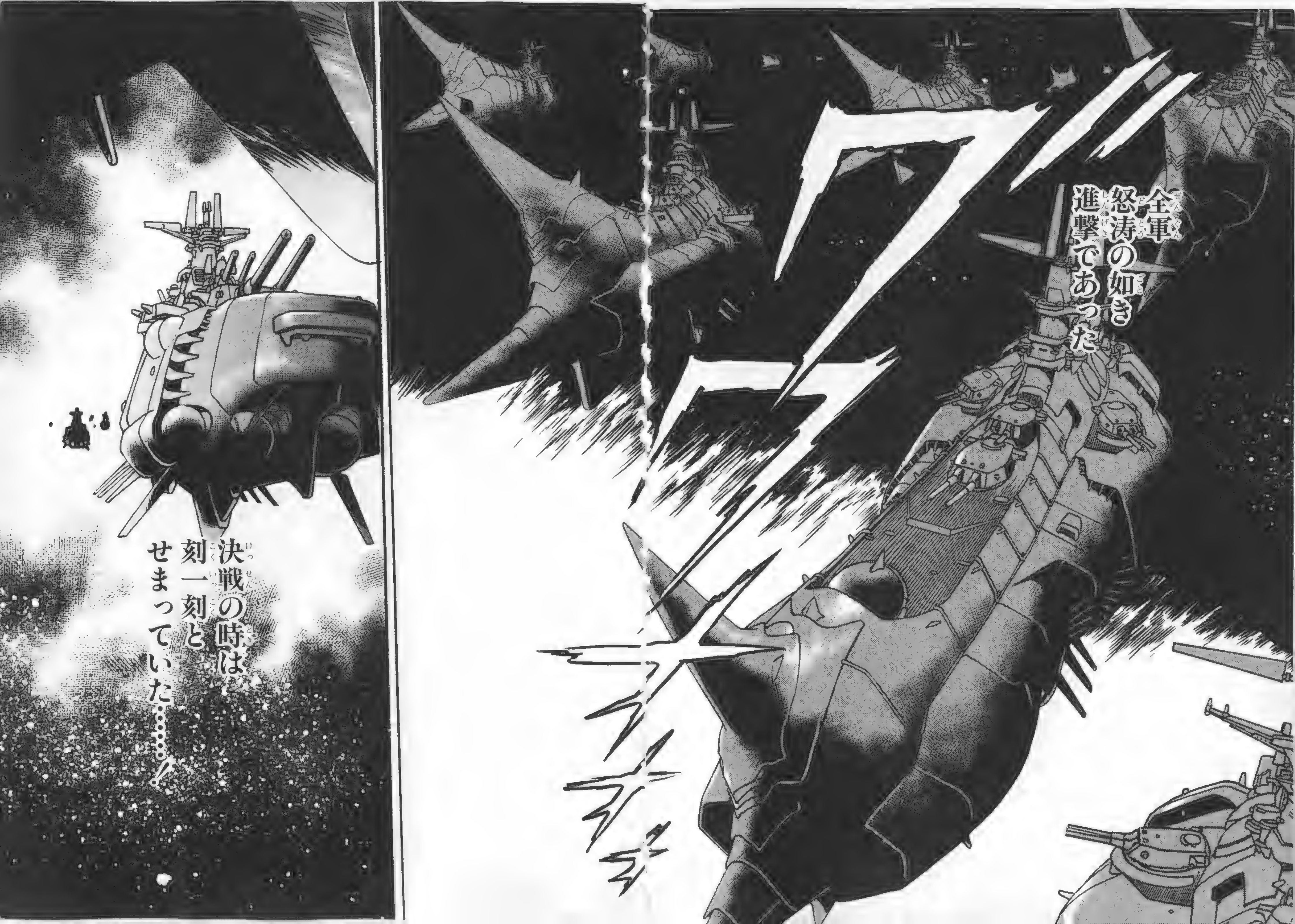
その冷徹さが
俺には必要だ・・・・・・!!
!!
陛下・・・・・・
全軍に
檄を・・・・・・!!
チャッ

全将兵よ！
よく聞け!!
項焉将軍は死んだ……！
!!
親父……!!

何十倍もの敵を相手にしての立派な最後だった……!!
だが項焉とその将兵は我々に憎き南天を討つ時を与えてくれた！
この時を我々が生かさずにしては彼らの死はまったくの犬死にとなる！
今皆が疲れているのはよくわかっている！
だがこの弔い合戦に勝ち墓前にその勝利を報告するため今一度力を振り絞ってくれ！

全軍 油が煮えたぎるかの 様に闘志が 燃えあがった!!
疲れを口に する者は いなかった!
全軍 続け——っ!!
これで いいな 師真

行くぜ——っ!!
缶が爆発しても かまわん! 回せ——っ!!
他の軍団に 遅れを とるな——っ!!


全軍怒涛の如き進撃であった
決戦の時は刻一刻とせまっていた……!

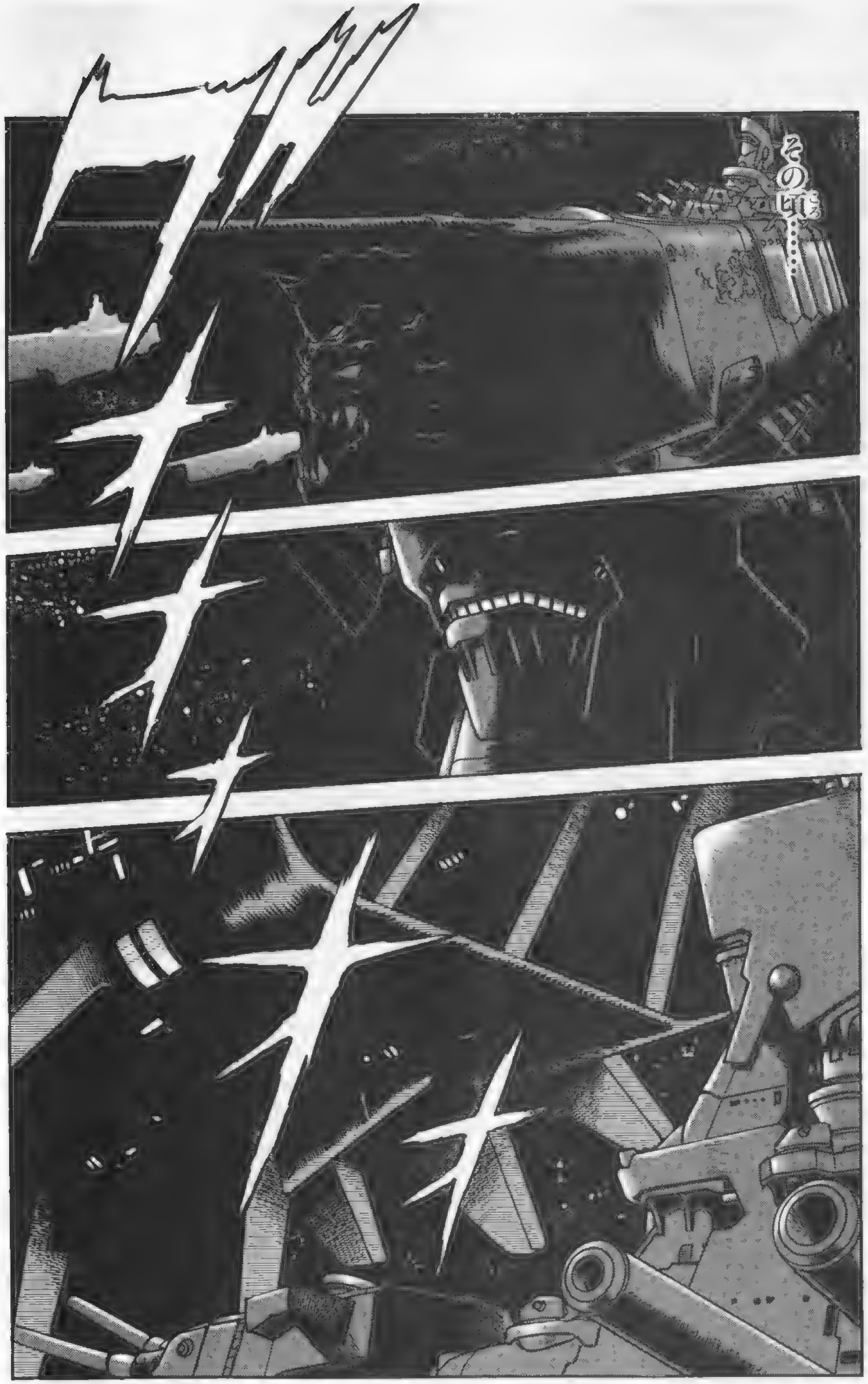
感じる……
天下への道が閉じてしまうのを……

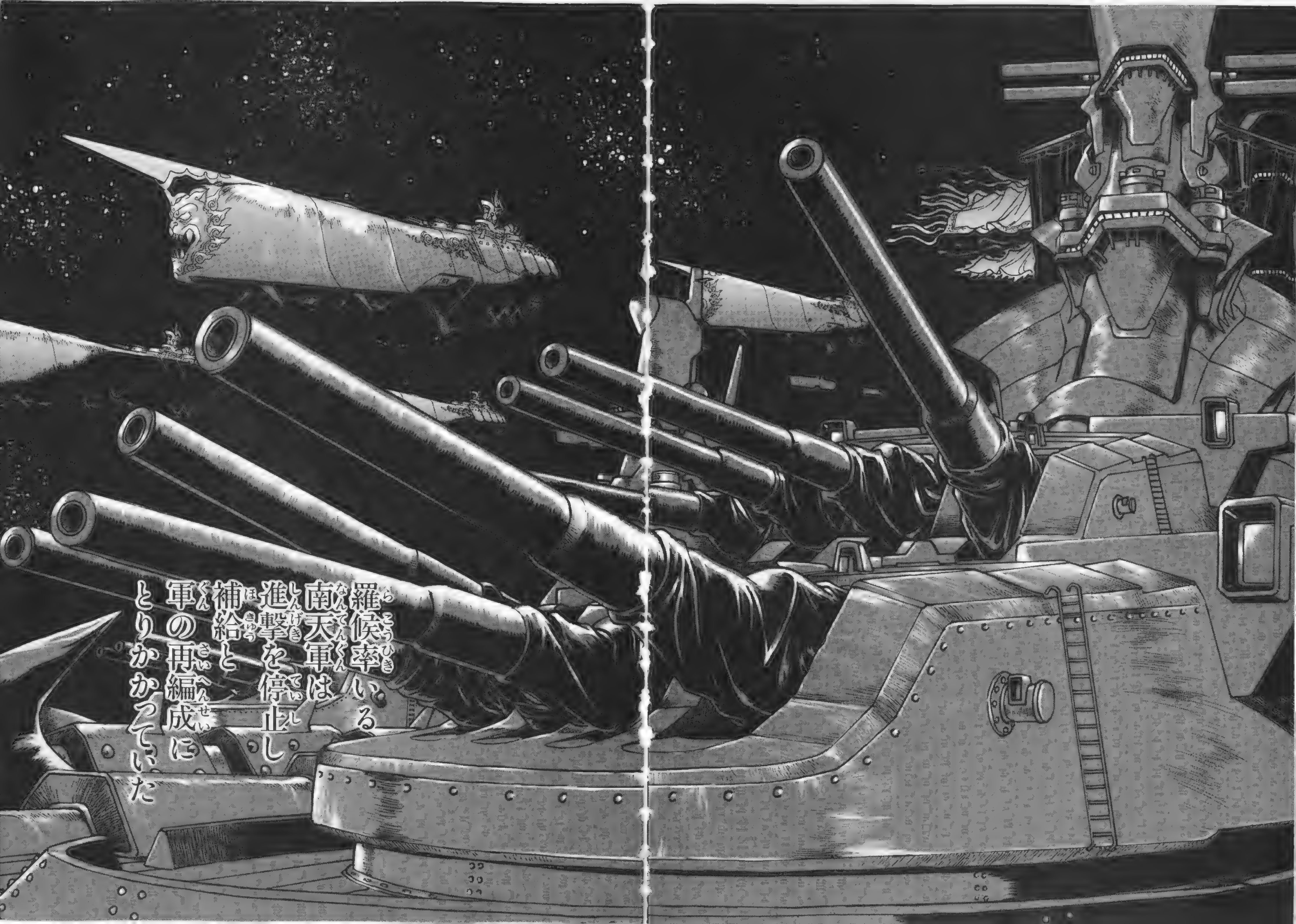
はっ……今何かおっしゃられましたか……
いや……
玄偉様……
なんでもない…案ずるな……

だ…弾正公……!!
な…なにっ!?
玄偉様!!
ええいっ
さがれ!!
来るな!!

う…っ!!
骸羅……!!
ふ……
ふふふ……
そうか……
弾正…骸羅……
おまえ達にも
わかるのだな……
天下への道が
閉じつつ
あるのが……

天運も
全て竜我に
流れて行くのだな
ふふ
業が深いものよ……
だが 天運にも
逆らい
生き続けた
わたしだ……
まだ
望みはある……!
華玉!!
は…はいっ!
仕度しろ…!
斉王都に
向かうぞ…!!


その頃……


羅候率いる南天軍は進撃を停止し補給と軍の再編成にとりかかっていた

この首……
いかに処分
いたしましょうか
……
そうだな……
どうだ？
項焉
首だけに
なったが
おぬしは
どう思う？
ええ？

ふん！
この老いぼれが!!
つまらぬ
意地を張り
おるから
この様に
無様な姿を
さらすことになる！
見てみろ！
まだ刃向かい
足りぬという
ツラだ!!

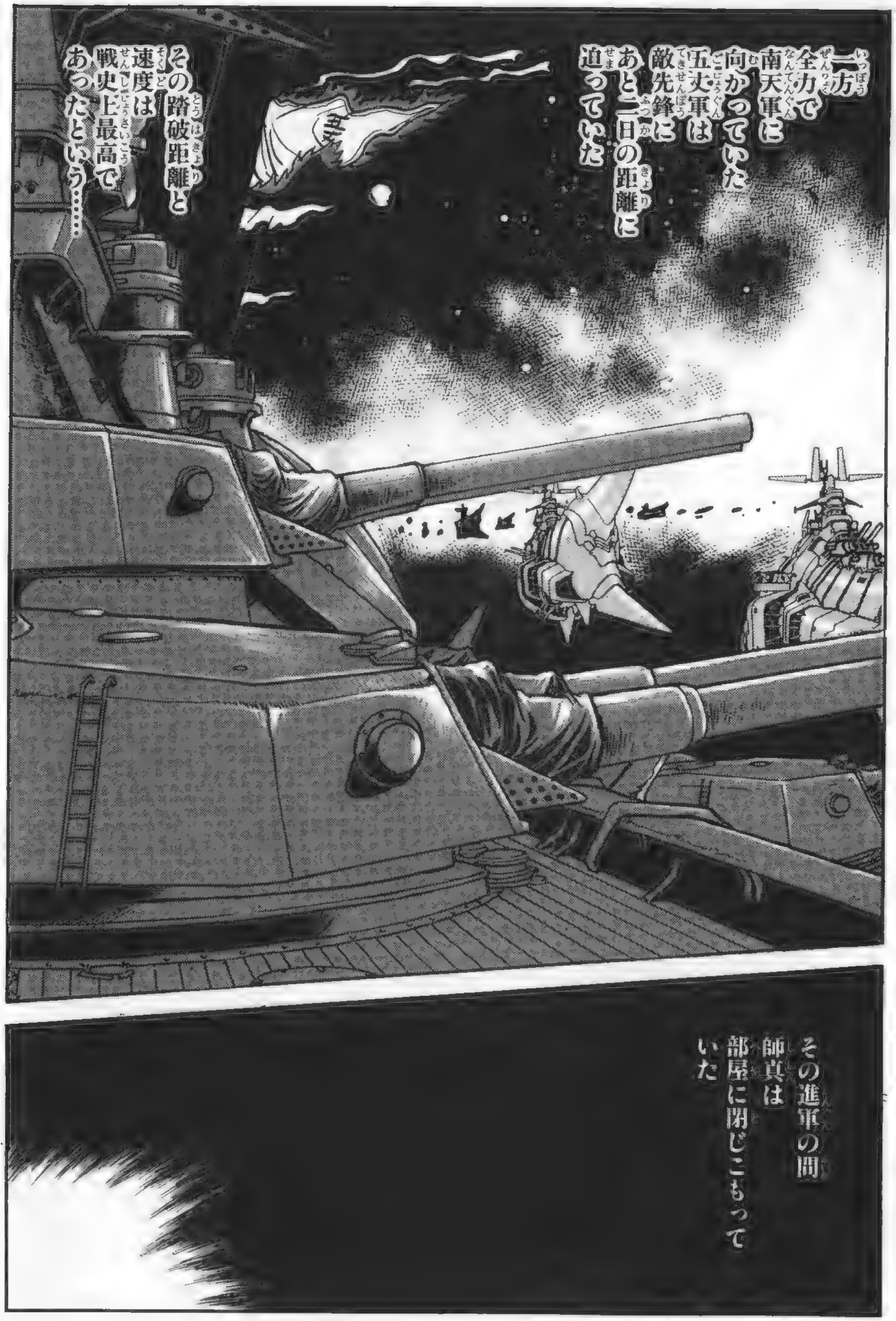
お……
おのれ……!!
!!
!?
こやつ……首だけになりおっても生意気な……!!
はあ…
はあ…

まだこの俺に刃向かう気か!!
いいだろう叩き割ってやる!!
と…殿!!
退けるのじゃ!
お気を静めなされ!!
首を退けいっ!
焼け!!
そんな首焼き捨ててしまえ!!
骨まで焼き尽くせ!
いいな!灰も残すな宇宙へ放り捨てろ!!
何もかも消し去れ!!

殿 それは考えが浅うございます
あ——っ!?
竜我めが我々の迎撃に老将を派遣したのは考えあってのこと
浅慮はその策に乗せられますぞ!!
どーいうことだ?
今五丈軍の中核にいる武将の多くは竜我旗揚げ時よりの宿将……いわば身内ともいえる間柄でございましょう
身内の一人を討たれその首を焼き捨てられでもしたら彼らは死をも覚悟で刃向かいましょう
また息子項武は一騎当千の強者と聞いております
むやみに味方の損害を増やすのはおもしろうございません
じゃあこの首を五丈に送り返せというのか!?
いえいえそれでは殿の度量が小さく思われます

敵将ながらあっぱれな戦いぶりを賞しねんごろに葬ってやるのです
我が将兵は敵でさえもその戦いぶりを賞してくれるとますます殿のためにはげみましょう
それがしも龍緒殿と同じ考えでございます
なにとぞご再考をお願いします!
ふん!
いいだろう 葬祭は王侯の礼をもってなし
こやつに五丈大将軍の位を与えよう!
ははっ お見事なご裁可でございます…
おもしろくない! 酒を持ていっ!

……
龍緒殿
我々は景気よく五丈領内を侵攻しているが……
それは逆に敵のワナに次第にはまっているのではないかと……
そういう気がしてならんのじゃが……
……
それは大将軍も感じておるのやもしれん
故に慎重な進軍に徹しておるのじゃろう
とにかく……
この戦い……長引くやもしれんのぉ……


一方全力で南天軍に向かっていた五丈軍は敵先鋒にあと二日の距離に迫っていた
その踏破距離と速度は戦史上最高であったという……
その進軍の間師真は部屋に閉じこもっていた

彼は情報の山に埋もれていたのだった
う〜〜〜
彼にとっても羅候率いる練・南蛮連合軍(南天軍)は未知の軍勢であった
その構成から戦闘力まで調べねばならないことはいくらでもあった
常に情報を重視した骸延の作った情報網を拡大・強化した師真が波状的に送り出した間者からの報告
項馬軍壊滅時にかろうじて持ち出せた戦闘詳報
首都からの情報……
同盟国・秦宮括よりの情報……

また師真は項馬軍と南天軍との戦闘に観戦武官を多数送り出していた
彼らはたとえ味方が壊滅しようと手出しは許されずひたすら情報収集にはげんだ
連中の戦艦の船足がトロイのもおそらく補給物資を満載してるからだろーな
そりゃ 二千万だ 三千万だの軍勢だ 補給艦も足らんわ
しかしなんだ? このメチャクチャな物量は……!
しかも彼は徹底的に捕虜を尋問した
項馬に何はともあれ捕虜を後送するよう厳命しておいたのだ

彼は
その捕虜から
南天軍を率いる
敵将らの性格まで
調べ上げていた
初めて
対戦する相手
だというのに
師真は見てきた
かのように
その詳細を
知り尽くしていた
その莫大な情報を
いささか楽しみながら
分析したのだった
……様
軍師様……
ん……
ん——……
なんだぁ
申しわけ
ありません
竜王様の
お召しで
ございます
竜王の……?
わかった
すぐに行くよ
いたたた…
座りっ放し
だもんなぁ……

あ……
寝む……
軍師様!
その師真の
胸中にあるのは
ただひとつ……
敵の軍師であり
全軍の
総指揮官でもある
姜子昌との
対決である
雷が羅候や正宗との
対決を望んでいたのと
同様
師真もまた
智略の闘いを
夢見ていたのである

おっ!
そこには斉王都より急ぎ合流してきた林則嘉と如晦の二人が待っていた
師真様
軍師殿
いやよく来てくれたな待っていたぞ
先ほど竜王様に対正宗戦戦勝のお祝いを申しあげていたところです
軍師様もお見事でございました
うむ……厳しい戦いであったがな……
陛下それともうひとつお祝いを申しあげねばなりません
……
ん?何だ

都を預かる三楽斎殿よりの書状でございます
あっ
おめでとうございます!
ご懐妊おめでとうございます!
そうか……麗羅が……!!
ピク
よくやった……!
項焉や正宗の様に死に行く者があれば逆に新しく生まれてくる者がいるんだな
これぞ変わらぬ宇宙の真理でございましょう

おっ
師真
お前も
祝ってくれるか!
ははっ
この俺が
父親だとお!!
なんか信じられ
ねえぜ!!
陛下
少し
お話が……!
二人共
少しはずして
くれんか
はっ
それでは
失礼します
なんだなんだ
このめでたい時に
眉間にシワ寄せて
ぶっ!!
何しやがんだ
このっ!!
バーカ!
てめえ
順番が
違うだろうが!!
なんだよ
順番って!!

紫紋様だよ
紫紋様!!
まずは何を
おいても
第一子には
正妻である
紫紋様に
だなーーっ!
このヘタクソ!
んなこと
先か後かの
問題だろ!
第一ガキは
多い方がいいって
言ったのは
おまえじゃねーか!
わかっとら――ん!
てめえが
彼女を大事に
するって言うから
俺は引き退がったん
だぞ~~~!
彼女の気持ちを
考えて見ろよ
この鈍カンヤロー!
俺の
女房は
紫紋一人だ!
それくらい
麗羅だって
わきまえてるし
紫紋も
順番なんか
気にしねぇよ
まあ
未練がましいことは
いいとして……
この時代…
正妻と第二夫人との
立場の違いほど
あやふやなものは
ねえんだ……
ましてや
おまえの子は
男子ならば
絶対権力を
引き継ぐ者…
二世皇帝と
なるんだ……

その母親となれば必然と発言力も増す……
二世皇帝の後見人として我ら重臣や正妻をしのぐ力を得るのだ……！
歴史上わが子かわいさに宮廷を血に染めた女が何人いたことか……
雷 もしおまえが紫紋大事に後継者選びに迷いでも見せれば……
麗羅はただ市井の女ではないんだぞ……
この戦国の世を権力者弾正の許 帝王学を自然に身につけた女だ……
皇帝の血を引いているだけの紫紋とは権謀術数では比べものにならない女丈夫だぞ!!

この後…… 師真の心配は半分当たり半分はずれることとなるが……
それはさておき その夜 師真 林 如晦の三人の頭脳による作戦会議が極秘におこなわれた
策が全てうまくいったとしても羅候を討ち取ることはできまい
はい やはりケタ違いの戦力差ですから……
つまり決戦はあくまで南天領内で行うべきということだ
羅候を追いつめるんだ
だが正面決戦はむずかしゅうございますな

やはり外堀を埋めて行くしかあるまいな……
三人の謀議は延々と続いたがこのことは厳しく伏せておかれた
この一戦にかける将兵の戦意をくじかないためでもあった

弾薬・燃料の補給はすんだか
まもなく終了いたします!
ようし終わり次第ただちに進撃だ!
遅れを取り戻さなくてはならん一気に五丈中枢を叩くぞ!!
竜我の奴! 正宗との戦の後斉王都に引き帰してみて都に我が南天の旗が立ち並ぶのを見て肝をつぶすだろうて

な……なんだ!!
爆発事故か!!

違う!これは敵襲だ!!
夏候才様!あれを……!!
おおおっ!!

竜我の大将旗！
ばかな
やつらは
正宗相手に
東の国境で
釘づけでは……
ゴゴゴゴゴゴ

全将兵よ！
あれが憎むべき
南天軍の先鋒だ！
項焉将軍の
恨みをはらす時が
きた!!
全軍突撃
――っ!!

殿……
殿 お目覚めを…！
姜子昌か……
おまえ自ら やってくるとは よほどの一大事の 様だな……
五丈軍本隊が 現れました！
なに？

ちょっと 待て！
竜我は正宗を 迎え撃つために 東の国境に 向かったんじゃ なかったのか!?
それとも 正宗と和議でも 結んだのか!?
いえ 物見の知らせでは 七日前に 両軍は開彭沖にて 激突……
独眼竜正宗は 討ち取られ 智軍は 壊滅した模様で ございます！
!!

あの正宗が……!!

姜子昌
酒を持ってこい!
は?
おまえも
やれ!
姜子昌!!
この杯
どちらのためで
ございますか?
竜我への祝杯?
正宗への弔い?
どっちでも
ねえ!

俺の勝利への前祝いだ!!

銀河にその名を残した凄惨な戦いの始まりであった……!

ついに激突した
雷と羅候項!!
やかましいっ!!
俺の望みはな――っ!!
老いぼれ親父と共に地獄へ行け――っ!!
竜虎対決の火花は全銀河を血に染める戦いとなる!!
項武に遅れるな!!
項焉の仇を討つ時は今ぞ!!
白象戦車隊の力を見せてやれ!!
突撃――っ!!
銀河統一への熱い想いを胸に秘め己の信念だけを信じ戦い続ける戦士達!!
次は象狩りだ!
銀河戦国群雄伝ライ第十六巻!
軍配があがるのはどちらだ!?

Dengeki Comics

銀河戦国群雄伝ライ ⑮

1997年4月25日　初版発行

著者　真鍋譲治

発行者　佐藤辰男

発行所　株式会社メディアワークス　〒101 東京都千代田区神田駿河台1-8 東京YWCA会館　電話03-5281-5213（編集）

発売元　株式会社主婦の友社　〒101 東京都千代田区神田駿河台2-9 電話03-5280-7550（営業）

装丁　朝倉哲也＋design CREST

印刷・製本　共同印刷株式会社

©JOJI MANABE 1997

R本書の全部または一部を無断で複写（コピー）することは、著作権法上での例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター（03-3401-2382）にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

初出／月刊電撃コミックガオ！ '96年8月号～11月号、'97年1月号（メディアワークス刊）

ISBN4-07-306093-7 C0979

レギュラー連載陣

OZNオズヌ しろー大野
HAUNTEDじゃんくしょん 夢来鳥ねむ
爆れつハンター 原作:あかほりさとる 作画:臣士れい
エルフを狩るモノたち 矢上 裕
いただきっ春平!! 迎夏生
EAT-MAN 吉富昭仁

発行◎メディアワークス　発売◎主婦の友社

銀河戦国群雄伝ライ

15

真鍋譲治

DE-5-15
発行
メディアワークス
発売
主婦の友社

9784073060932
1920979009301
ISBN4-07-306093-7
C0979 ¥930E
発行●メディアワークス　発売●主婦の友社　定価：本体930円 ※消費税が別に加算されます

DENGEKI COMICS EX

フォーチュン・クエスト①②
迎 夏生COMIC 深沢美潮STORY

エンジェルアーム①～⑦
衣谷 遊

央華封神①②
栗橋伸祐 原案友野 詳

電撃摩陀羅海賊本①
田島昭宇 原作
with MADARA PROJECT

MADARA赤LASA①～③
田島昭宇

MADARA壱①～④
田島昭宇

MADARA転生編
田島昭宇with MADARA PROJECT

MADARA外伝
死海のギルガメシュ
花津美子with MADARA PROJECT

幼稚園戦記まだら①～④
義見依久with MADARA PROJECT

聖痕のジョカ①～⑤
大塚英志原作 相川 有作画

銀河戦国群雄伝ライ
①～⑮
真鍋譲治

緋翔伝幾千の月のかけら①～⑥
夢来鳥ねむ

魔狼王烈風伝①～⑥
沢田 翔

メビウスクライン⓪
麻宮騎亜

女神天国新女神誕生編
宮須弥

ネコた～ぼ16V①
そうま竜也

闘神伝2
大友紀弥

摩陀羅RPG
MADARA PROJECT

ダーティペアFLASH
牧原ひさと
高千穂 遙オリジナルクリエイター

超神Z①
作・司徒剣僑
訳・MADARA PROJECT

がんばれ!プリンセスちゃん
ひぐちきみこ

ガンドライバー①②
ビトウ ゴウ原作
せたのりやす作画

リスティス①
うたたねひろゆき

最終機攻兵メタルスレイダー
グローリーエイミアの面影①
☆よしみる

スターピンキーQ①②
只野和子作画 眠田 直原作

ローティスなあじゃ
おおのやすゆき

極道くん漫遊記①
桐嶋たける
中村うさぎ原案

レジェンド・オブ・クリスタニア①～③
はじまりの冒険者たち
姫川 明with HIURI PRO
水野 良原案

テレビアニメ版
神秘の世界エルハザード①～⑤

女神天国SP
うらべ・すう

JAJA姫武遊伝①
中村うさぎ原作 衣谷 遊作画

流れ星のジャッカル
島本和彦

魔獣水滸伝KIZNA①②
ビトウ ゴウ原作
夏野すいか作画

ぽっぷるメイル
藍崎ゆう

太陽の少女インカちゃん①
小野敏洋

ダーティペアFLASH DX
Key&Yuri
大野竹丸
高千穂 遙オリジナルクリエイター

誕生～Debut
蘭宮 涼

メルクリウスプリティ①
西野 司

ドラゴンナイト4①
冨樫

もっとがんばれ!プリンセスちゃん
ひぐちきみこ

Nocturne～夜想曲～①
栗橋伸祐